

水戸城大手門，二の丸角櫓，土塀整備基本計画

水 戸 市

— 目 次 —

第1章 基本計画策定の基本的事項	1
1 基本計画策定の趣旨	3
2 水戸市第6次総合計画における位置付け	4
3 関連計画における位置付け	5
第2章 水戸城の概要	9
1 水戸城の立地	11
2 水戸城の歴史	12
3 近世水戸城の特色	15
第3章 基本方針	19
1 基本理念	21
2 歴史まちづくりの視点	22
3 施策の大綱	23
第4章 整備計画	27
1 大手門	29
2 二の丸角櫓	32
3 土塀	35
4 市民との協働	37
5 概算事業費	38
6 整備スケジュール	39
第5章 動線計画	43
1 歩行者動線	45
2 車両動線	48
第6章 管理活用計画	49
1 管理計画	51
2 活用計画	53
第7章 関係法令との整合性	55
1 文化財保護法	57
2 道路法	57
3 建築基準法	57
4 都市緑地法	57
5 水戸市風致地区条例	57
6 景観法	57

7	水戸市屋外広告物条例	58
8	土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律	58
9	消防法	58
第8章 推進体制		61
参考資料		65

第 1 章 基本計画策定の基本的事項

第1章 基本計画策定の基本的事項

1 基本計画策定の趣旨

本市はこれまで、平成22年に国の認定を受けた歴史的風致維持向上計画に基づき、水戸城下町を包括するエリアを重点地区に設定し、歴史的資源と景観の保全と形成を図ってきました。

また、平成26年度からは「水戸市第6次総合計画—みと魁プラン—」に基づき、水戸の歴史の象徴でもある弘道館・水戸城跡周辺地区（以下「地区」という。）の歴史的景観を磨き、輝かせ、多くの人々が来て、見て楽しめる交流拠点づくりを進めるための事業を推進しているところです。

特に、水戸城を象徴する歴史的建造物である大手門、二の丸角櫓、土堀の価値と魅力を広く発信し、後世に継承していくことは、市全体の郷土愛を育むとともに、本県・本市の教育や観光面での振興にも繋がるなど、まさに水戸の地で今を生きる私たちの責務とも言えます。

平成26年11月には、「弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史まちづくり基本構想」（以下「基本構想」という。）を策定し、魁のまち・水戸の風格あるまちづくりに向けた主要施策として、水戸城歴史的建造物のうち、大手門、二の丸角櫓、土堀の整備を位置づけたところです。

こうした地区の歴史まちづくりをめぐる現状を踏まえ、基本構想で位置づけられた大手門、二の丸角櫓、土堀の整備に係る諸課題を整理し、基本的な考え方及び方針を定めるため、基本計画を策定するものです。



弘道館・水戸城跡周辺地区

2 水戸市第6次総合計画における位置付け

本市は、平成26年3月、都市づくりの基本方針となる「水戸市第6次総合計画」を策定し、「笑顔にあふれ快適に暮らせる安心都市づくり」、「未来に躍動する活力ある先進都市づくり」、「水戸ならではの歴史、自然を生かした魅力ある交流都市づくり」の三つの理念のもと、将来都市像を「笑顔にあふれる安心快適空間 未来に躍動する 魁のまち・水戸」と定め、その実現に向けた各種施策を位置付け、計画に基づく施策を推進することとしています。

このうち、「水戸市第6次総合計画」の特徴でもある基本計画の重点プロジェクトにおいては、「～水戸の自然、歴史、文化の魅力を生かした～観光集客力アッププロジェクト」を位置付け、本市の有する歴史・文化の魅力の向上に優先的かつ集中的に取り組むこととしています。

また、歴史的資源を活用したまちづくりは、観光や都市景観、にぎわい、交流の創出に重要な要素となっていることから、基本計画・各論中の「都市核（中心市街地）の強化」、「戦略的な観光の振興」、「歴史的資源の保全と活用」、「魅力ある景観の形成」、「魅力ある交流拠点の形成」、「水戸のブランド力の向上」において、歴史まちづくりに係る施策等が位置付けられています。

○基本計画・重点プロジェクト

「～水戸の自然、歴史、文化の魅力を生かした～観光集客力アッププロジェクト」

水戸の歴史・文化の魅力向上により多くの人々が訪れるまち、訪れるたびに新たな発見や感動に出会えるまちを目指し、戦略的な取組を進めることとしています。

＜戦略的な取組＞

- ・弘道館・水戸城跡周辺の魅力づくり
- ・歴史・観光ロードの整備
- ・戦略的観光PR活動の推進
- ・回遊できるまちなか観光散策コースの構築

＜基本計画・各論＞

「歴史的資源の保全と活用」をはじめ、六つの小項目において、弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史まちづくりの推進を位置付け、各種施策を推進することとしています。

- ・2-1-1 都市核（中心市街地）の強化
- ・2-2-1 戦略的な観光の振興
- ・3-1-1 歴史的資源の保全と活用
- ・3-1-3 魅力ある景観の形成
- ・3-3-1 魅力ある交流拠点の形成
- ・3-3-2 水戸のブランド力の向上

3 関連計画における位置付け

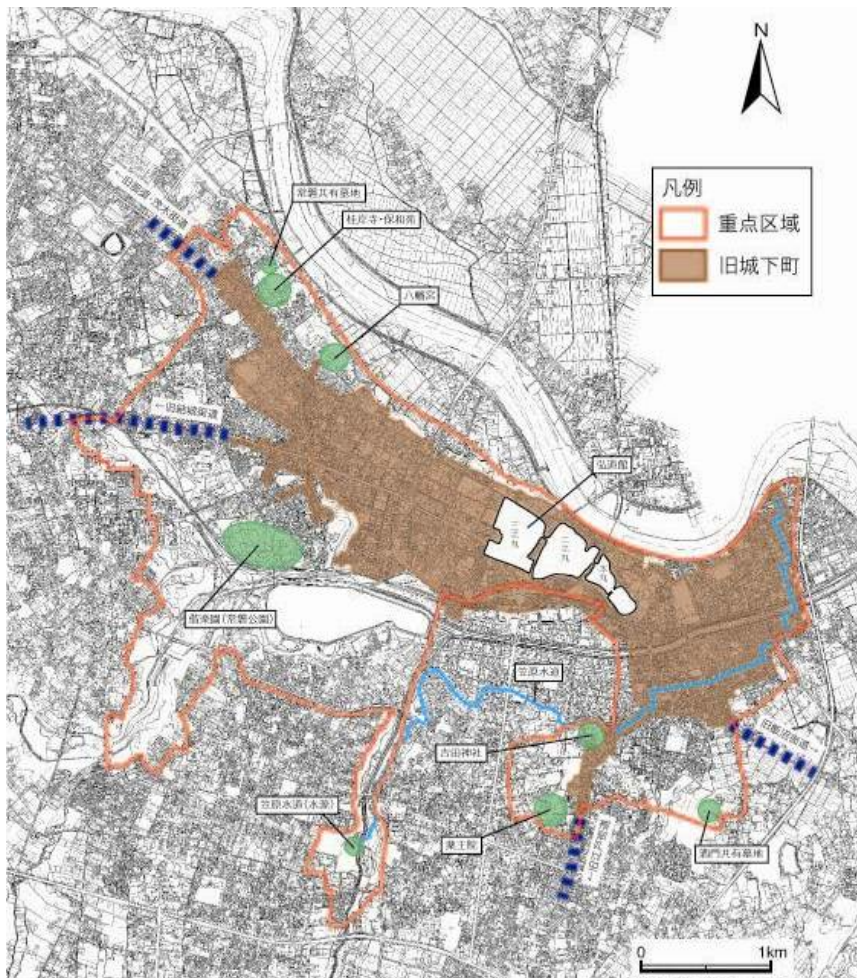
(1) 水戸市歴史的風致維持向上計画

本市は、平成22年2月、水戸市歴史的風致維持向上計画を策定しました（平成25年3月に一部改定）。

本計画では、本市の歴史的風致の維持及び向上に関する方針として、次の項目を掲げています。

- ・ 水戸の歴史的風致を形成する文化財建造物に代表される多様な歴史的建造物の積極的な保存と活用を図る。
- ・ 水戸の歴史的風致に息づく民俗芸能、年中行事などの継承、育成を図る。
- ・ まちづくりと連動し、文化財と周囲の環境との一体的な保全を図る。

なかでも弘道館・水戸城跡周辺地区は、本市において重点的に歴史的風致の維持・向上に取り組む範囲である重点区域（水戸市歴史的風致保存・形成区域／面積は約1,160ha）に含まれています。重点区域は本市の歴史的風致の特徴の一つである水戸城跡及び城下町の周辺区域に相当し、歴史的建造物の保全・復元とその周辺環境の整備により、城下町の歴史と伝統を踏まえた情緒や風情のある良好な市街地が形成され、市民の間に本市の歴史性を踏まえたまちづくりへの参加意識を高めることとしています。



重点区域における
水戸城跡及び旧城下町の範囲

(2) 水戸市景観計画

本市は、魅力ある都市景観の形成を目指し、平成16年制定の景観法に基づき、平成20年にこれまでの都市景観基本計画を水戸市景観計画として改定しました。

本計画では、本市の歴史、文化等の特色を生かした魅力ある都市景観の形成に向け、基本方針の一つに「風格、味わいある歴史・文化景観の育成」「自然や歴史と調和した美しいまち並みの形成」を掲げ、歴史的資源のつながりや回遊性の向上を図るとともに、歴史的資源を保全・再生・再認識し、伝統文化を発見し、継承することとしています。

弘道館・水戸城跡周辺地区（本計画では「三の丸周辺地区」と呼称）については、偕楽園周辺地区、保和苑周辺、備前堀周辺とともに重点的に景観形成を図る地区とされ、周辺の歴史的資源との連携や一体的な活用による景観の形成を推進するほか、弘道館や偕楽園など、先人の遺した文化財等を貴重な歴史的資源として再認識し、歴史のまちの風格・味わい、奥行きが感じられるよう、歴史的資源の保全、再生を図ることとしています。

具体的な景観形成方針としては、景観に配慮した公共施設の整備、風致地区内における建築物の高さの制限や意匠の誘導、大規模建築物や屋外広告物等の規制誘導などにより、その自然や歴史性などの特性を生かしたまちづくりに努めるとともに、義公生誕の地については、周辺と融合した歴史資源として保全するとともに、周辺地区の良好な景観の誘導に努めることとしています。



景観計画における弘道館・水戸城跡周辺地区

(3) 水戸市新観光基本計画

本市は、平成 17 年 4 月に策定された新観光基本計画について、平成 26 年 3 月に策定された水戸市第 6 次総合計画の策定にあわせ、本市を取り巻く課題等に対応し、観光交流人口の増加に向けた施策を戦略的かつ総合的に展開するため、平成 26 年 4 月、新たな観光基本計画（第 3 次）を策定しました。

本計画では、弘道館などの歴史的資源をはじめとする多様で魅力ある観光資源をもとに、目指す将来イメージを「おもてなしと歴史・文化・自然によって新たな感動に出会えるまち水戸」と定め、観光客を惹きつけ、多くの観光客に来訪いただける観光都市を目指すこととしています。

弘道館・水戸城跡周辺地区については、具体的なソフト事業として「水戸藩歴史マップの作成」、「弘道館・水戸城跡周辺ライトアップの実施」、「水戸城についての市民の意識醸成」が掲げられ、宿泊観光客の市内・近隣地域への回遊性を促進することとしています。

具体的なハード事業としては二の丸角櫓・大手門の復元、歴史・観光ロード整備等が掲げられ、他の観光施設との回遊性を高め、観光誘客を促進することとしています。

第2章 水戸城の概要

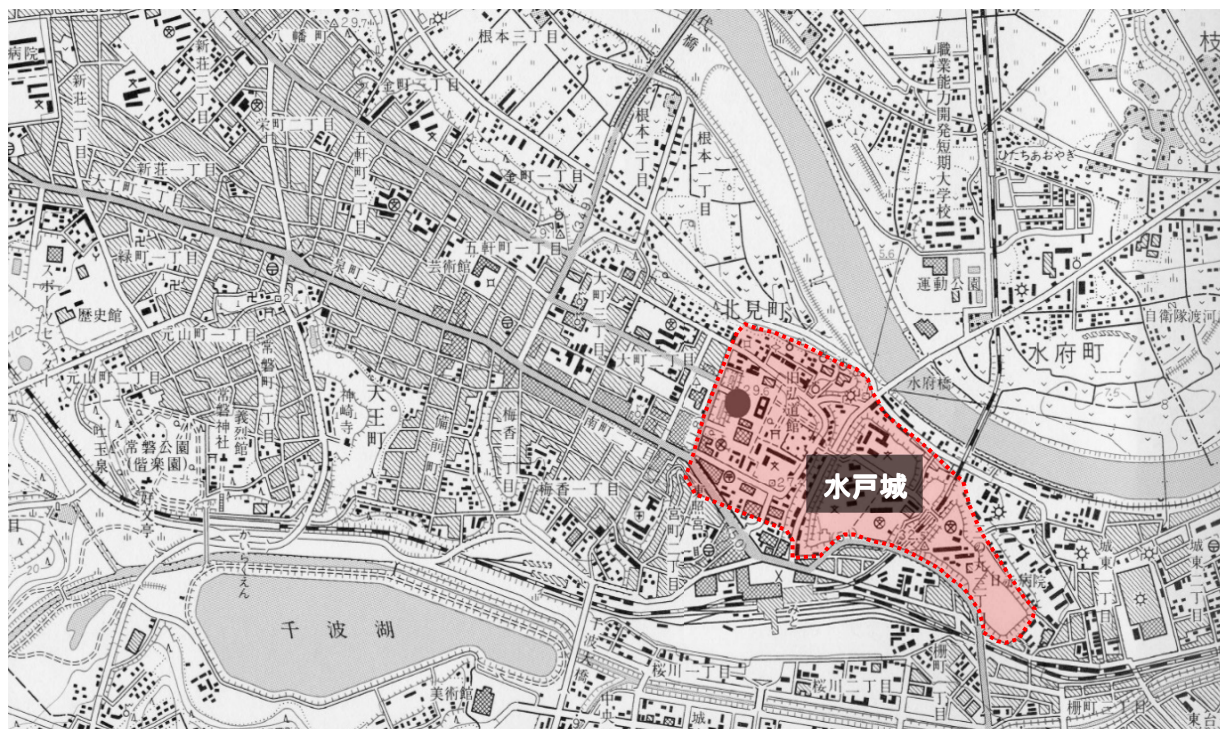
第2章 水戸城の概要

1 水戸城の立地

水戸城は那珂川と桜川に挟まれた馬の背状の台地（通称上市台地）先端部に位置します。この地は常陸国の中原に位置し、常陸府中（石岡市）から陸奥に向かう途中の陸上交通の要であるとともに、桜川・那珂川・那珂湊を結ぶ水上交通の要地でもありました。こうした点から、水戸城は中世初頭より、地域の覇権を目論む豪族・大名の居城として利用されました。

地質的には、上市台地是那珂川によって形成された河岸段丘の一つで、第三紀に形成された泥岩の水戸層を基盤とし、その上に第四紀の地層が不整合に堆積しています。水戸層の上には粘土・砂から構成され、貝化石を含む見和層が、その上には那珂川が運んできた礫から構成される上市層、灰白色の常総粘土層、関東ローム層が順に堆積しています。台地と沖積地との比高は24～25mです。

J R水戸駅から徒歩5分と、中心市街地内にありながら、主郭部分は水戸藩校弘道館（国特別史跡）や小・中・高等学校などが建ち並ぶ閑静な文教エリアとなっており、残された区割りや土塁などの遺構を通して、往時の面影を偲ぶことができます。



水戸城の位置

2 水戸城の歴史

(1) 馬場大掾氏による水戸支配

水戸城は近世城郭としてのイメージが先行しがちですが、その歴史は中世初頭に遡ります。水戸城は12世紀末から13世紀初頭頃、常陸平氏の流れを汲む馬場資幹によって、現在の本丸付近に居館を構えたのが最初とされています。

資幹は常陸国吉田郡内の一地頭に過ぎませんでした。源頼朝の信任を得て頭角をあらわし、1193(建久4)年、富士裾野の巻狩における曾我兄弟の仇討ち事件を契機として、常陸大掾職とその家領を多家義幹から継承し(「吾妻鏡」)、常陸平氏の惣領となって常陸府中城(石岡市)と水戸城に根拠を置きました。以後、水戸城は馬場大掾氏の居城として約2世紀にわたって地域支配の中心地となりました。



馬場大掾氏時代の縄張(常陸国水戸城絵図より)

(2) 江戸氏による水戸支配

南北朝の動乱は常陸にも波及し、馬場大掾氏は南朝方として争乱の渦中にありました。そのなかで北朝方の常陸守護佐竹氏は着々と所領を拡大し、14世紀中頃の佐竹義篤の代には水戸地区の南北を佐竹勢力が挟むほどになり、次第に馬場大掾氏の勢力が弱まっていきます。そしてこの時期、下江戸郷(那珂市)の土豪である那珂通泰の子通高が江戸氏を名乗り、佐竹配下となっていました。1387(元中4)年、難台城の戦いで軍功を挙げた通高は馬場大掾氏の領域内に所領を与えられ、江戸氏は水戸地域に進出することになります。これに対し1400(応永7)年、馬場大掾満幹は水戸城の修築を行い、水戸地方の防備を固めています。

馬場大掾氏は1416(応永23)年の上杉禅秀の乱でも佐竹氏と対抗して敗れ、衰退の一途を辿ります。そして1426(応永33)年6月、江戸通房は馬場大掾満幹の留守を狙って水戸城に奇襲をかけ、これを奪取しました。この水戸城奪取事件は水戸地区の歴史のエポックであり、これを機に馬場大掾氏は水戸の支配権を失い、代わって江戸氏が水戸城を居城とし、以後7代160年にわたり勢力を拡大していくことになります。

江戸氏時代の水戸城は本丸だけでなく二の丸まで整備され、本丸部分を「内城」「古実城」、

二の丸部分を「宿城」「天王曲輪」と呼びました。内城は江戸氏の居城として、宿城は一族重臣の屋敷地および市が設けられたといひます。



江戸氏時代の縄張（常陸国水戸城絵図より）

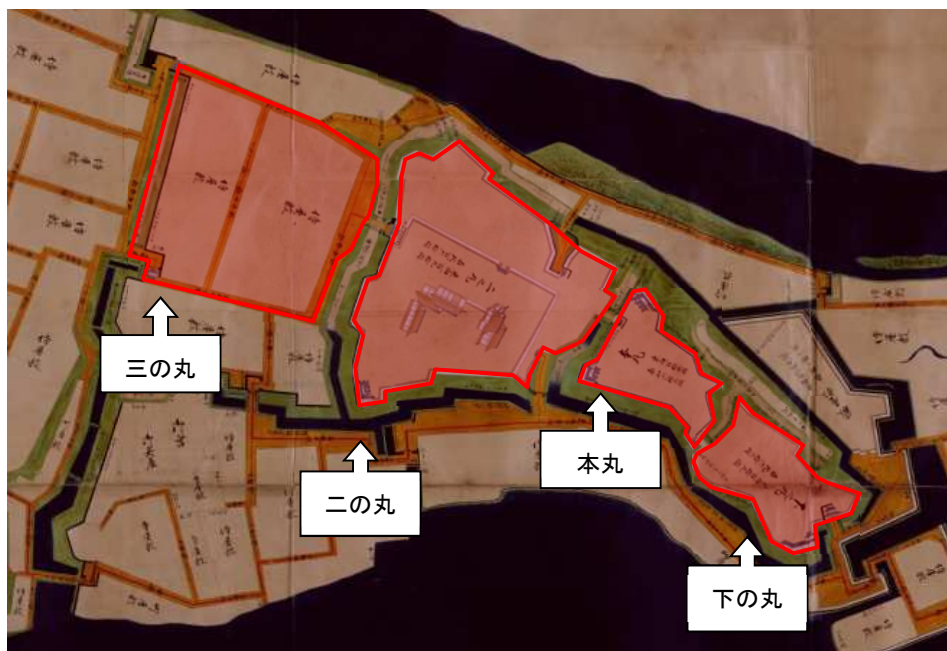
(3) 佐竹氏による水戸支配

江戸氏は時に主家である佐竹氏と水戸地域の領有をめぐって争い、また常陸南部にも進出して大塚氏や小田氏を脅かすまでになりましたが、1590(天正18)年、小田原合戦への参陣を怠ったことにより、江戸氏の立場は急変します。同年、佐竹義宣は豊臣秀吉から常陸一国を安堵され、領国統一に乗り出します。義宣は江戸重通氏に水戸城譲渡を要求しますが、重通はこれを拒否しました。同年12月19日、義宣は太田城（常陸太田市）を出発し、三方から水戸城を急襲しました。佐竹勢は火を放ちながら郭内に攻め入り、江戸勢は奮戦の末敗退、重通は結城に落ちのびました。160年の長きにわたって水戸城を治めた江戸氏は一夜にして没落し、変わって佐竹氏が水戸城を支配することになりました。



水戸城薬医門

1591(天正19)年3月、義宣は居城を太田城から水戸城に移し、1593(文禄2)年に水戸城および城下の大規模な普請を行いました。江戸氏時代の内城を修築して本丸とし、宿城の一角に自身の居館を構え二の丸としました。さらに下の丸（浄光寺曲輪、東二の丸）・三の丸も整備しました。さらに城下には家臣団を集住させるとともに、町人地を設けるなど、この普請により、水戸城は近世城郭としての整備がなされたと言われています。現在の本丸内には薬医門（県指定建造物）があります。もとは本丸虎口に設置されていたとみられ、中世水戸城で唯一現存する建造物です。



佐竹氏時代の縄張（常陸国水戸城絵図より）

(4) 徳川家による水戸支配

関ヶ原役の賞罰が一段落した後の1602(慶長7)年、佐竹義宣は徳川家康より突如秋田に国替を命ぜられます。その後直ちに家康による検知・国割が実施され、水戸には家康五男で甲斐武田氏の名跡を継いだ信吉が15万石で封ぜられました。しかし信吉は翌年に急死し、嗣子がいなかったため、家康は10男の長福丸(後の徳川頼宣)を領主とし20万石を与えました。1609(慶長14)年、頼宣は駿河・遠江・東三河50万石に転封となり、代わって家康11男の頼房が下妻城より25万石で入城しました。この徳川頼房を初代として、御三家水戸徳川藩は11代にわたって水戸を領し、明治に至ります。



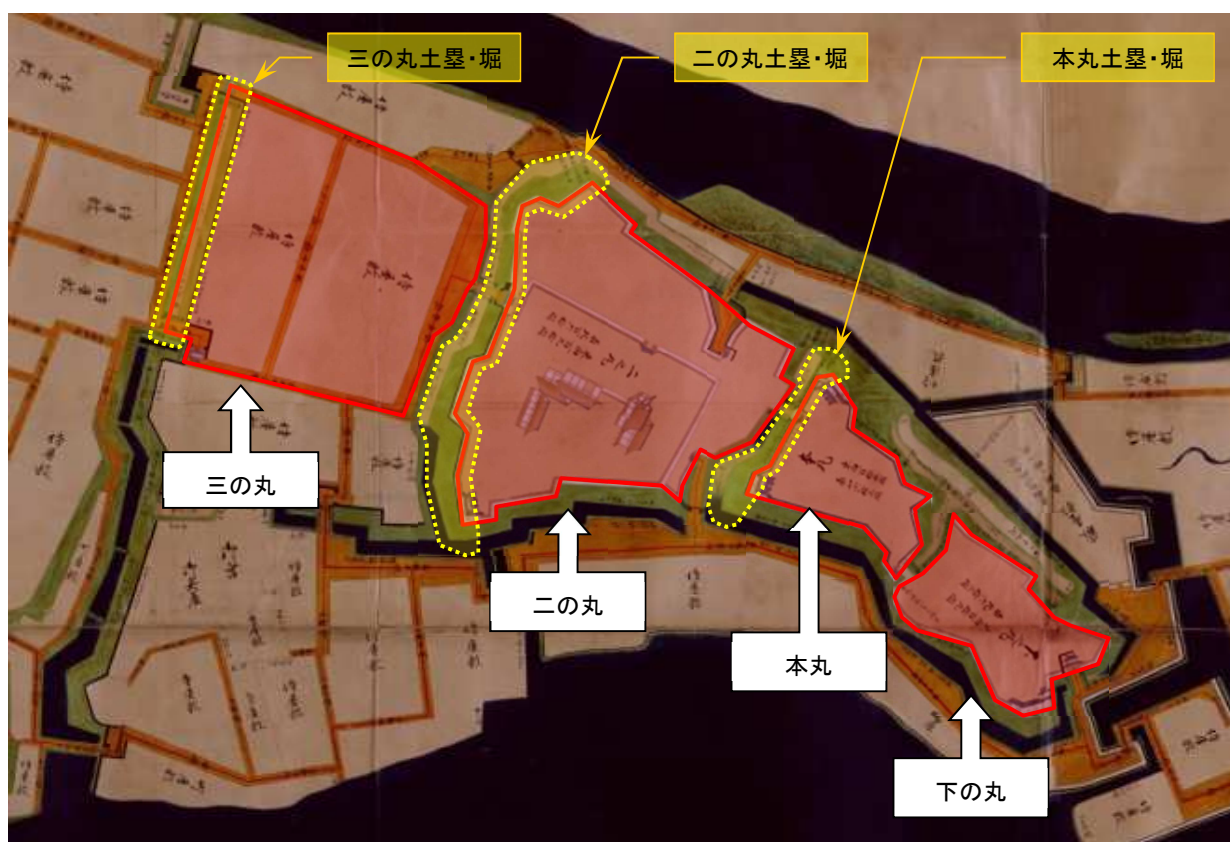
弘道館

水戸徳川家による城郭整備は1625(寛永2)年から1638(寛永15)年にかけて行われました。城内には天守を造らず、二の丸に御殿や三階櫓を構えました。その後、1698(元禄11)年には二代藩主光圀により二の丸に水戸彰考館が、1841(天保12)年には九代藩主斉昭により三の丸に藩校弘道館が開設されました。

3 近世水戸城の特色

(1) 国内最大級の土造りの城

主郭部分は上市台地の地形を利用し3か所に堀切を設け、四つの曲輪を構築しました。東から下の丸、本丸（現茨城県立水戸第一高等学校）、二の丸（現水戸市立第二中学校、茨城県立水戸第三高等学校、茨城大学教育学部附属小学校）、三の丸（現弘道館、水戸市立三の丸小学校、県庁三の丸庁舎他）と呼称されます。それぞれの曲輪には土塁を設けました。とりわけ本丸・二の丸・三の丸土塁と堀切は壮大です。本丸西側土塁と堀（水郡線線路）は堀幅 40m、比高差 22mを測ります。二の丸西側土塁と堀（県道 232 号線）は堀幅 40m、比高差 12mを測ります。三の丸西側土塁と堀は堀幅約 30m、比高差約 14m、土塁敷 30m、土塁総延長 240mを測ります。誠に堂々たるものであり、土造りの平山城としては国内最大級の規模です。



近世水戸城の縄張と土塁・堀

(2) 水戸城内の建造物

近世水戸城は、城郭の正門である大手門、実質上の天守であった三階櫓、政務・儀式が行われた表御殿、藩主家族が暮らした奥御殿、大日本史編纂局である水戸彰考館等、城郭の重要建造物はすべて二の丸に所在していました。曲輪の名称は二の丸ではありますが、近世を通じて水戸城の中心的な曲輪が二の丸であったことは、建物の所在から明白です。

また、江戸氏時代まで中心的な曲輪として機能していた本丸・下の丸については、角櫓や多聞櫓が数多く建てられるとともに、下の丸曲輪の東突端に二重の常光寺門（搦手門）が建てられるなど、曲輪の外側を廻る建造物は二の丸に劣っていませんでした。千波湖対岸から

みた水戸城は、下の丸・本丸・二の丸の三つの曲輪に複数の角櫓や多聞櫓が連なり、壮観な景観を演出していたものと思われます。

しかし、本丸・下の丸の曲輪内は、板蔵・土蔵が数棟ずつ建てられているのみであり、大半は空閑地でした。資材の搬入出等、藩運営上の事務的な土地利用はなされていたものと思われませんが、政務・儀礼のうえでの利用はなく、近世城郭としての重要性は二の丸に比べると相対的に低いものでした。



二の丸

A	大手門（二階建）	E	柵町坂下門（一階建）	I	奥御殿（一階建）
B	二の丸角櫓（二階建）	F	杉山口門（一階建）	J	三階櫓（五階建）
C	二の丸多聞櫓（一階建）	G	中門（一階建）	K	水戸彰考館（一階建）
D	柵町口門（一階建）	H	表御殿（一階建）		

本丸

L	本丸南西角櫓（二階建）	N	本丸北西角櫓（二階建）	P	中御門（一階建）
M	橋詰門（薬医門，一階建）	O	本丸多聞櫓（一階建，2棟）	Q	板蔵（一階建，2棟）

下の丸

R	下の丸角櫓（二階建，多聞櫓付属）	S	浄光寺門（二階建）	T	土蔵（一階建，3棟）
----------	------------------	----------	-----------	----------	------------

三の丸

U	弘道館（正門，正庁，至善堂，孔子廟，鹿島神社，八卦堂，文館，武館，医学館，天文台ほか） ※1841(天保12)年以前は重臣屋敷地				
----------	---	--	--	--	--

近世水戸城の主要建造物

三の丸については、土塁・堀切による防御機能は設けられていたものの、曲輪内の全域が近世初頭より重臣の屋敷地に充てられており、藩政運営に関わる機能は有していませんでした。しかし九代藩主徳川斉昭が就封するに当たり、三の丸内の屋敷地はすべて移転となり、1841(天保12)年、藩校弘道館を開設しました。弘道館内には正門・正庁・至善堂・孔子廟・鹿島神社・八卦堂・学生警鐘・文館・武館・医学館・天文台等、様々な建造物が整然と配され、とくに正門・正庁・至善堂は御殿建造物に匹敵する重厚な仕様でした。斉昭は治教一致の理念により、政治と学問を一体のものとして捉えていたため、弘道館は単なる教育施設というわけではなく、藩政運営の一環として捉えられ、三の丸は、水戸城において二の丸に次ぐ重要な性格を有する曲輪となり、明治に至りました。

第 3 章 基本方針

第3章 基本方針

1 基本理念

弘道館・水戸城跡周辺地区は、江戸時代以降、水戸の政治・文化の中心となってきた地区です。現在、地区には日本遺産であり、世界遺産を目指す弘道館をはじめ、水戸城跡や薬医門、水戸彰考館跡、義公生誕の地など、水戸城の歴史を伝える豊かな資源が集積しています。城跡の名残をとどめている場所として、関東でも有数の地区といえます。また、北辰一刀流剣術、新田宮流抜刀術、そして、水府流水術など、弘道館の精神を反映した伝統文化も受け継がれています。地区は水戸駅前に位置し、市民や観光客が訪れるに当たっても絶好の場所です。

一方で、水戸城を象徴する歴史的資源の多くが、明治以降、焼失や解体を余儀なくされ、埋蔵文化財として残るのみとなり、往時の姿をイメージしにくい状況となっています。また、現在、様々な歴史的資源を結ぶ施策についても、回遊ルートの設定による統一性のある景観整備を進めているところであり、地区の潜在的な可能性を十分に引き出しているとはいえない状況にあります。

そこで、次に掲げる基本理念のもと、今ある歴史的資源を積極的に活用するとともに、水戸城を象徴する歴史的建造物を整備し、あわせて様々な歴史的資源を繋ぐ回遊空間の創出や、水戸城跡の風情を感じさせる景観整備等を行うことにより、市民や観光客が水戸城跡の魅力を最大限に味わい、集い、交流することができる地区として、歴史まちづくりを進めます。

【基本理念】

水戸の顔にふさわしい 天下の魁の精神を受け継ぐ歴史・文化交流拠点の形成

2 歴史まちづくりの視点

多くの市民や観光客が、弘道館・水戸城跡周辺地区を訪れ、その魅力を再発見できるよう、次の3つの基本方針を掲げ、地区の歴史まちづくりに取り組みます。

基本方針1 誰もが水戸城を感じることができる歴史的空間づくり

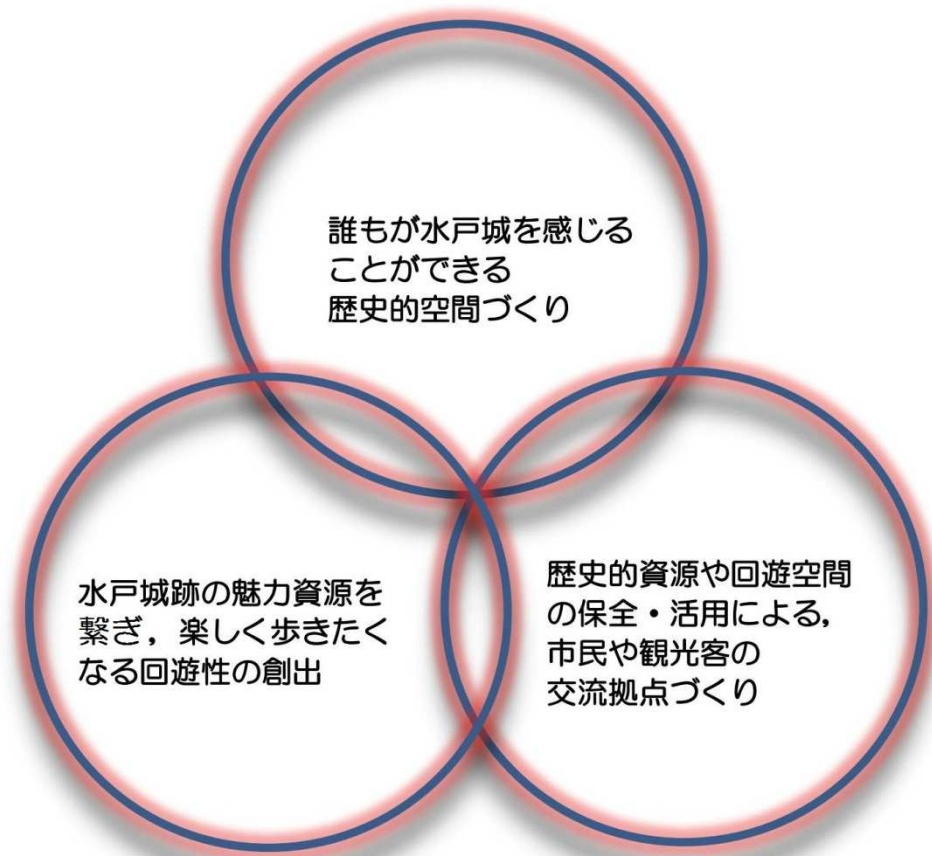
日本遺産であり、世界遺産登録を目指す弘道館を核としたゾーンにおいて、市民が水戸の歴史にふれたい、観光客が訪れてみたいと思える水戸らしい歴史的資源の整備による魅力向上を図り、「誰もが水戸城を感じることができる歴史的空間づくり」を進めます。

基本方針2 水戸城跡の魅力資源を繋ぎ、楽しく歩きたくなる回遊性の創出

多くの観光客が降り立つ水戸駅北口ペDESTリアンデッキから、水戸の歴史に思いをはせ、期待感を持って本地区に向かうことのできる眺望景観の形成を図るとともに、水戸の歴史を感じることのできるモニュメント等の整備を進め、「水戸城跡の魅力資源を繋ぎ、楽しく歩きたくなる回遊性の創出」を図ります。

基本方針3 歴史的資源や回遊空間の保全・活用による、市民や観光客の交流拠点づくり

市民が水戸の歴史を再認識し、また、多くの観光客が分かりやすく水戸の歴史を辿ることのできるよう、歴史的資源を回遊しやすい環境づくりを進めるとともに、中心市街地への新たな人の流れを生み出す連携施策に取り組むなど、「歴史的資源や回遊空間の保全・活用による、市民や観光客の交流拠点づくり」を進めます。



歴史まちづくりの3つの視点

3 施策の大綱

基本理念を実現するため、次の5つの施策の大綱を掲げ、地区の歴史まちづくりに取り組みます。

(1) 魅力ある歴史的建造物の整備

日本遺産であり、世界遺産登録を目指す弘道館や水戸駅北口ペDESTリアンデッキからの眺望景観を踏まえ、市民や観光客が水戸の歴史にふれたい、訪れてみたいと思える魅力ある歴史的建造物として、本地区で学ぶ園児、児童生徒の安全性と緑地の保全に十分配慮しながら、市民との協働により魅力ある歴史的建造物の整備を進めます。

(2) 歴史の感じられる歩行者空間の形成

市民や観光客が水戸の歴史を感じ、歩いて楽しめる環境づくりとして、白壁塀等の整備を進めるとともに、回遊しやすい案内板等を設置するなど、歴史の感じられる歩行者空間の形成を図ります。

(3) 中心市街地のにぎわいと交流の創出

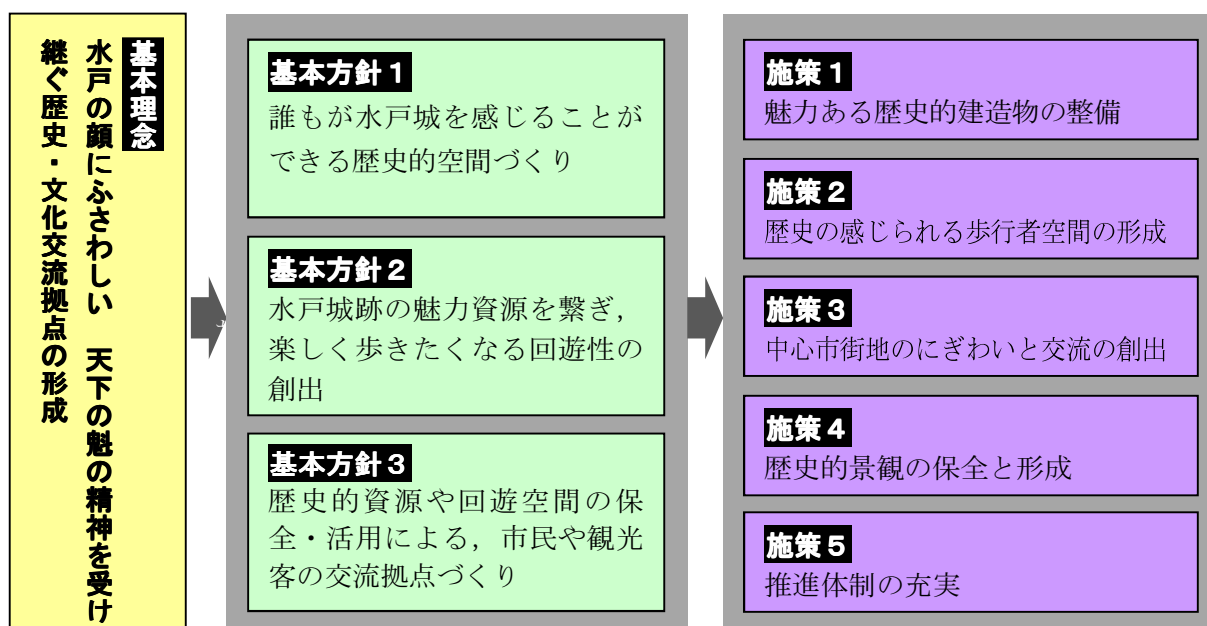
本地区の歴史的資源の魅力を効果的に活用し、観光部門のほか、関係機関及び市民主体による活性化に係る取組等との連携により、まちなかの回遊性を高める様々な施策を推進し、中心市街地のにぎわいと交流の創出を図ります。

(4) 歴史的景観の保全と形成

景観計画に基づく施策を推進し、本地区の特徴である風格の感じられる歴史的景観の保全と形成を図ります。

(5) 推進体制の充実

基本構想に定めた施策を着実に推進し、世界遺産登録を目指すにふさわしい、魁のまち・水戸のさらなる発展のシンボルとなるよう、市民との協働による推進体制を整備します。

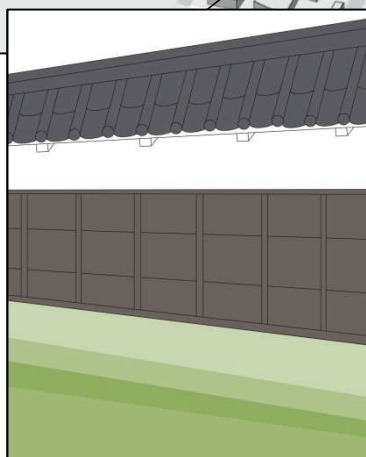
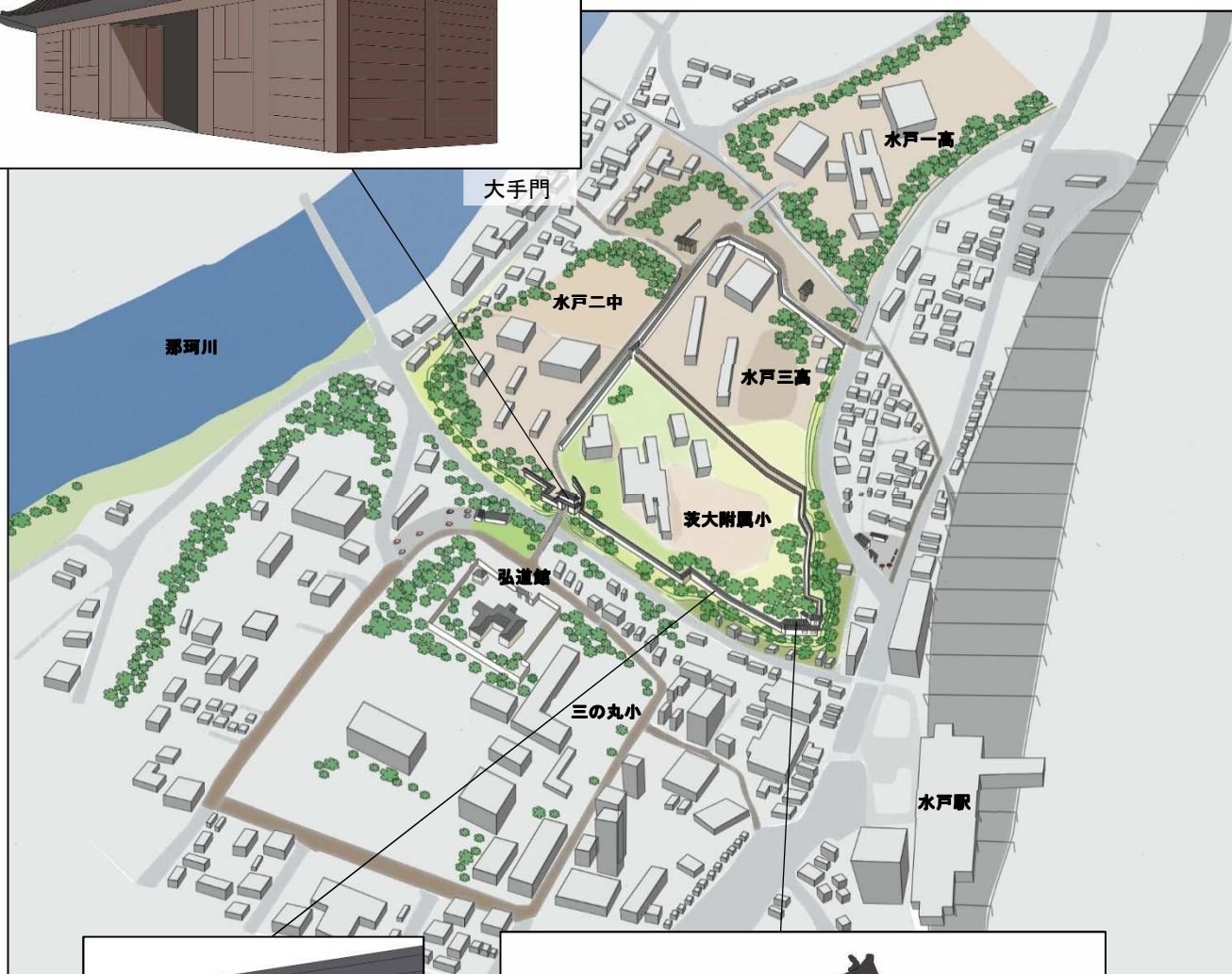
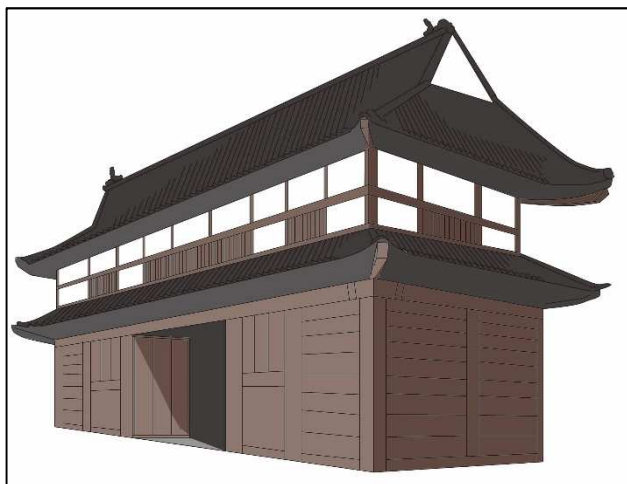


地区の歴史まちづくりのグランドデザイン





地区のグランドデザイン



土堀



二の丸角櫓

第 4 章 整備計画

第4章 整備計画

1 大手門

大手門の正面には、日本遺産であり、世界遺産登録を目指す弘道館があります。大手門は、水戸城跡への導入部として重要なランドマークといえ、弘道館と水戸城跡をつなぐ結節点でもあります。

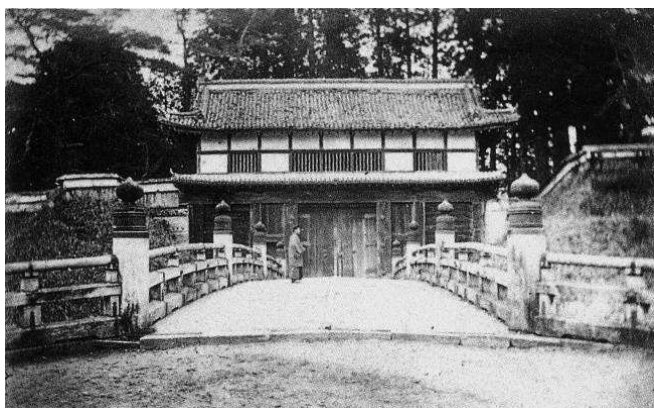
平成5年、平成24年及び平成27年に実施した発掘調査の結果、その規模と位置が判明し、また、絵図や古写真も確認しています。

こうした調査に基づき、(※)遺構を保護しながら、在来工法により、大手門の復元整備を行います。

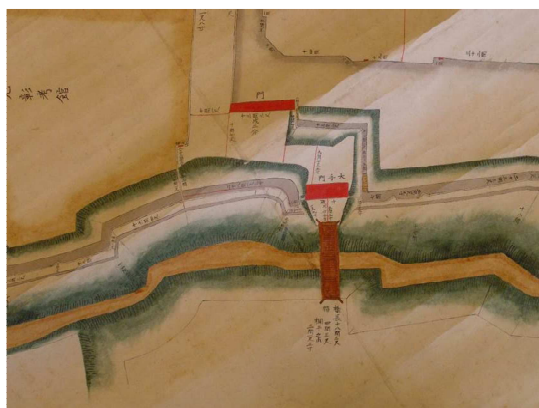
※ 遺構の保護について：遺構面を保護するのに十分な保護層を確保します。工法等により保護層の確保が困難な場合は、県または市文化財保護審議会において審議し、適切な方策を決定します。



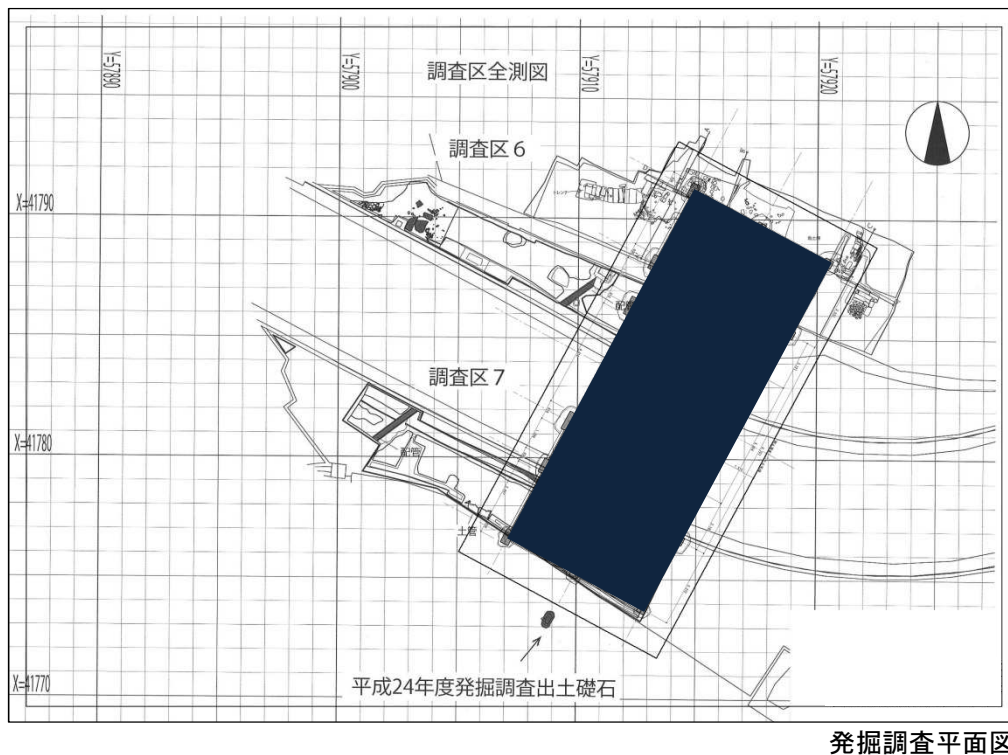
大手門の復元整備後のイメージ（弘道館正門から望む。）



大手門の古写真（文京ふるさと歴史館所蔵）

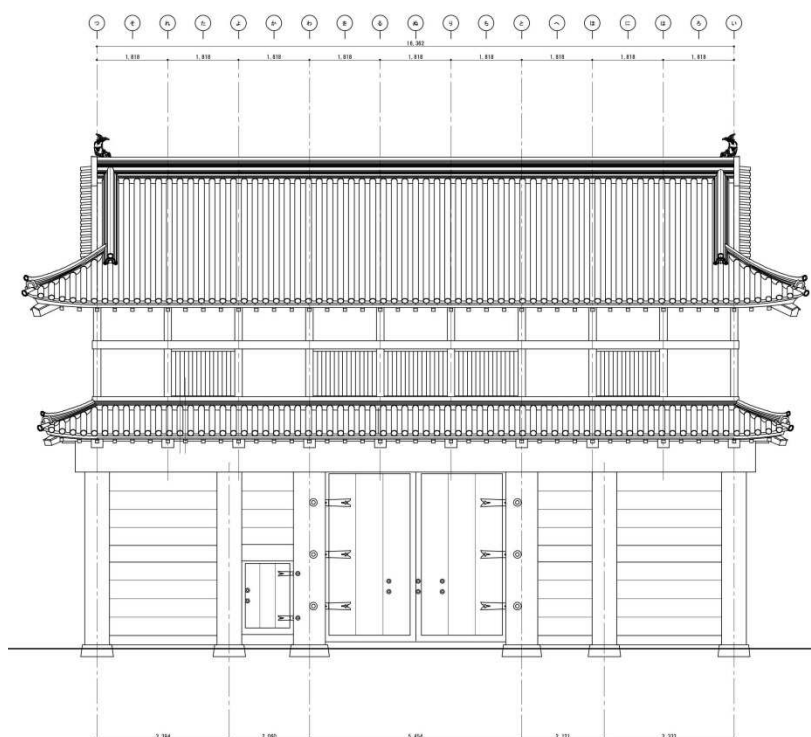


大手門の古絵図（水戸城実測図、部分）

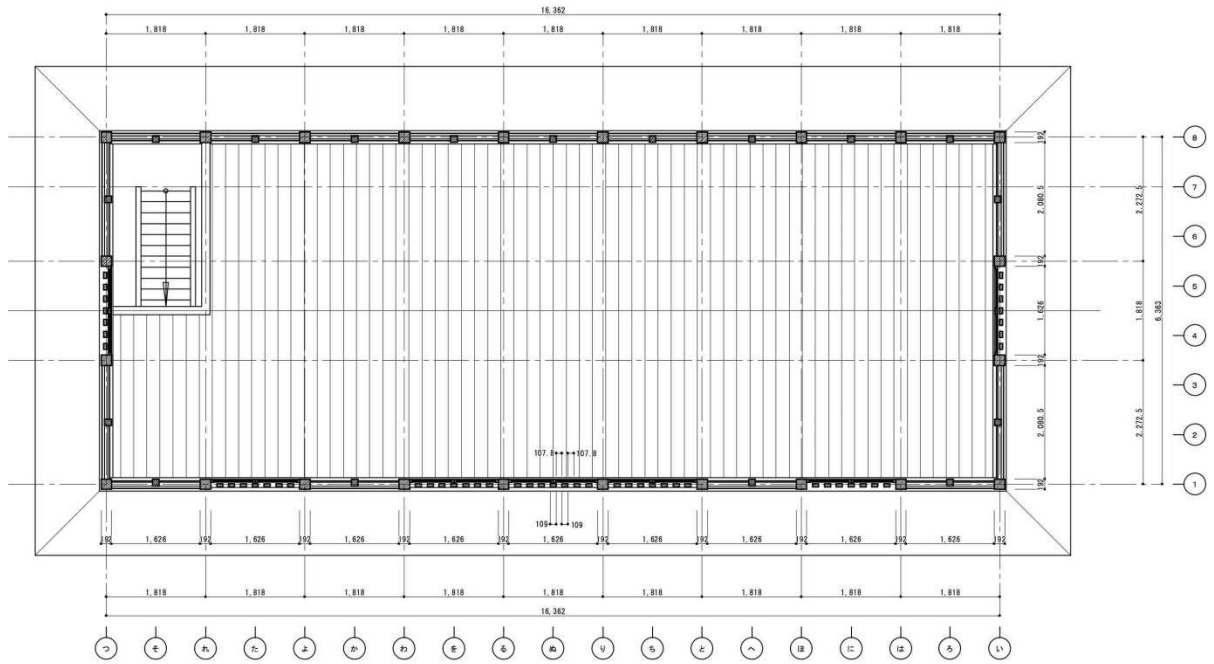


【大手門の概要及び図面（想定）】

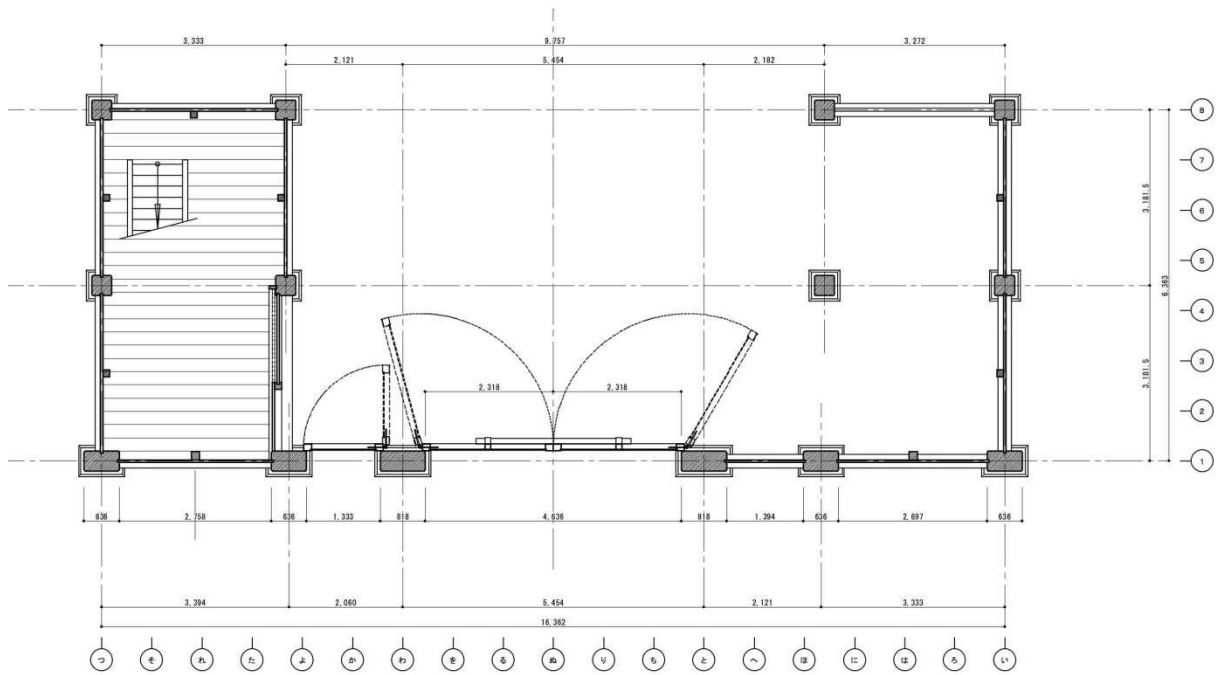
大手門	:木造2階建て						
建築面積	128.57	m ²	〈概要〉				
延床面積	208.22	m ²	外壁	一階:	木部現し	二階:	土壁の上漆喰塗り
軒高	8.80	m	屋根	入母屋造, 本瓦葺(土瓦)			
棟高	12.66	m	開口部	一階:	門, 潜戸	二階:	連子窓



大手門 正面立面図（想定）



大手門 二階平面図（想定）



大手門 一階平面図（想定）

2 二の丸角櫓

二の丸角櫓は、土堀と相まって、多くの観光客が降り立つ水戸駅北口ペデストリアンデッキから眺望できるランドマークとして、多くの人に水戸城跡の存在を気付かせ、期待感を持って本地区に向かう契機となります。



二の丸角櫓の復元整備後のイメージ（水戸駅北口ペデストリアンデッキから望む。）



二の丸角櫓の古絵図
（水戸城実測図，部分）

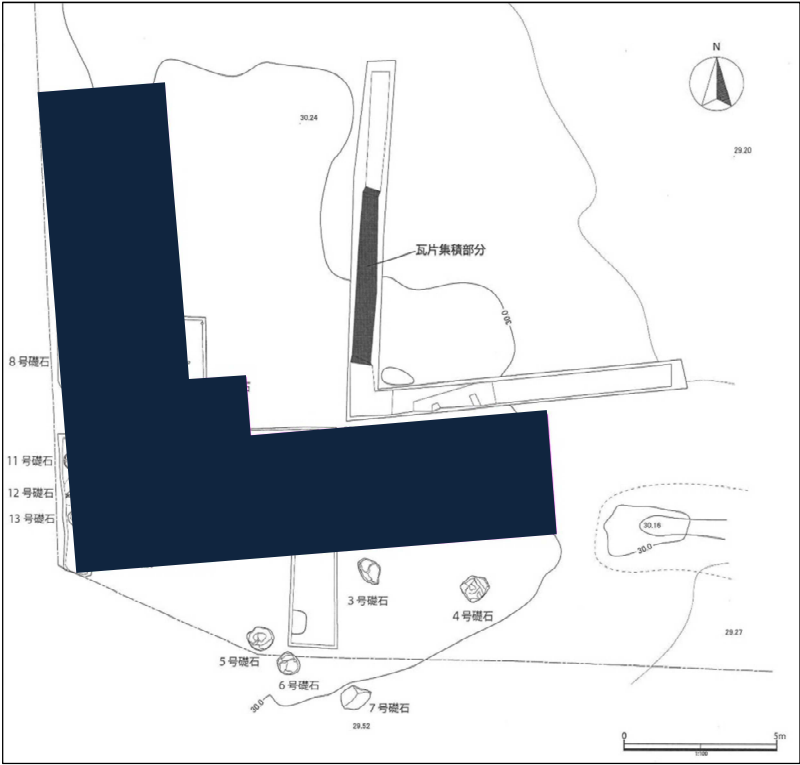


（参考）本丸角櫓の古写真
（公益財団法人文化財建造物保存技術協会蔵）

平成 22 年と平成 23 年に実施した発掘調査の結果，その規模と位置が判明し，また，絵図や類似する本丸角櫓の古写真も確認しています。

こうした調査に基づき，(※)遺構を保護しながら，在来工法により，二の丸角櫓の復元整備を行います。

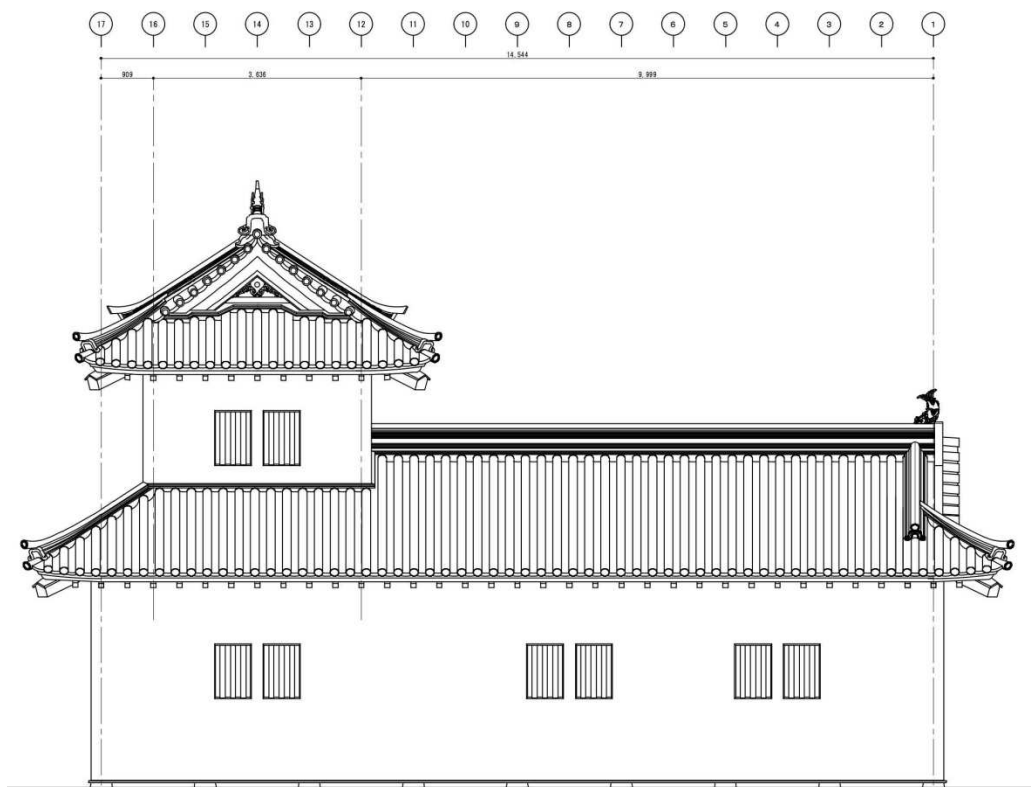
※ 遺構の保護について：遺構面を保護するのに十分な保護層を確保します。工法等により保護層の確保が困難な場合は，県または市文化財保護審議会において審議し，適切な方策を決定します。



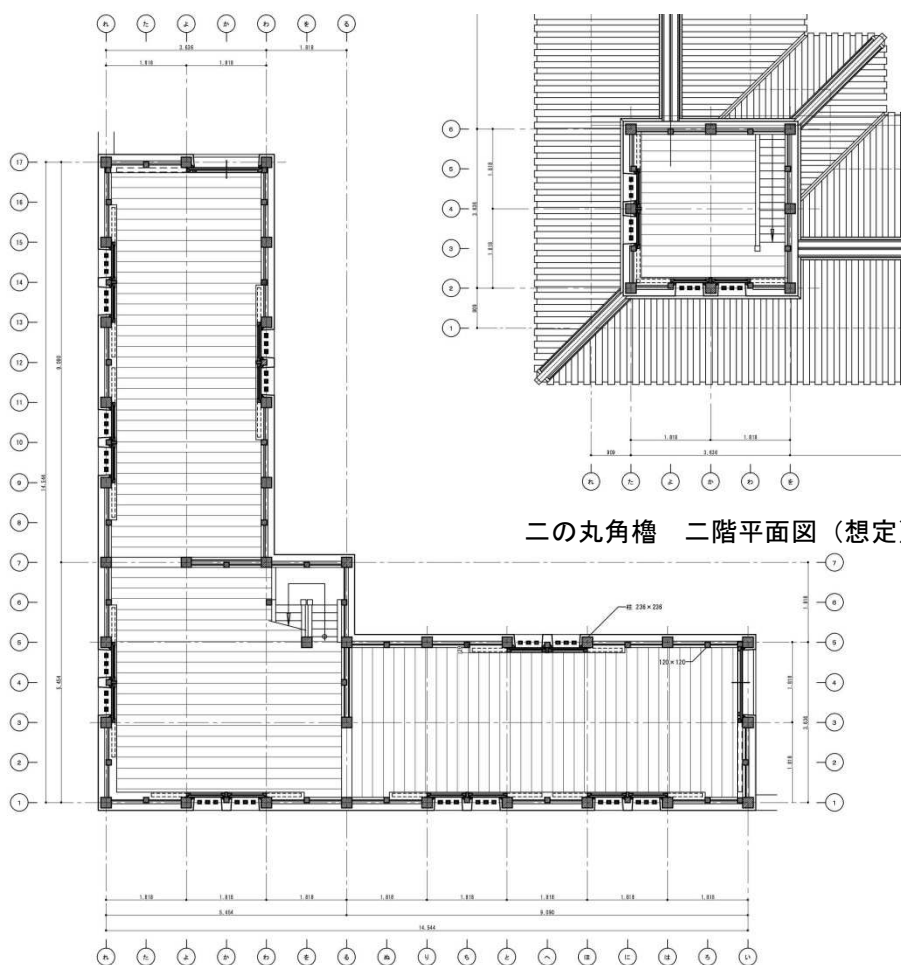
発掘調査平面図

【二の丸角櫓の概要及び図面（想定）】

二の丸角櫓	：木造2階建て				
建築面積	95.84	m ²	＜概要＞		
延床面積	95.02	m ²	外壁	一階・二階：	土壁の上漆喰塗り
軒高	7.015	m	屋根	入母屋造，本瓦葺（土瓦）	
棟高	10.016	m	開口部	一階・二階：	格子窓，片引土戸



二の丸角櫓 南面立面図（想定）



二の丸角櫓 二階平面図（想定）

二の丸角櫓 一階平面図（想定）

3 土塀

大手門と二の丸角櫓の間等には、土塀が廻っていたことが、絵図や古写真からも確認されています。

こうした調査に基づき、(※)遺構を保護しながら、往時の外観に復する仕様により、土塀の再生整備を行います。

※ 遺構の保護について：遺構面を保護するのに十分な保護層を確保します。工法等により保護層の確保が困難な場合は、県または市文化財保護審議会において審議し、適切な保護策を決定します。



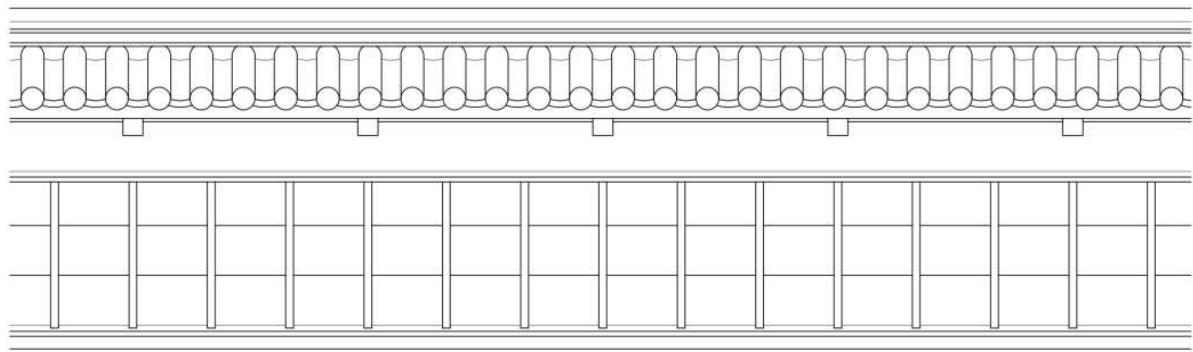
土塀の再生整備後のイメージ（県道市毛水戸線から望む。）



水戸城と同仕様の土塀の例（熊本城土塀）

【土塀の概要（想定）】

総長	450	m	＜概要＞				
棟高	1.8	m	外壁	上部：	大壁漆喰仕上げ	下部：	板張り
			屋根	瓦葺			



土塀立面図（想定）

4 市民との協働

地域や旧水戸城大手門等復元整備促進実行委員会（平成 27 年 3 月 1 日設立）との協働により、一枚瓦城主制度による寄付金募集をはじめ、大手門、二の丸角櫓、土堀の整備に向けた各種事業を展開し、市民参加の気運の醸成を図ります。



料のまゝ水戸の風格ある
歴史まじけりに向け

一枚瓦城主による大手門・二の丸角櫓・堀の復元整備の実現

弘道館・水戸城跡周辺地区は、水戸らしさの原点である歴史や文化が「集まれ、育まれてきた、水戸の根」とも言える重要な地区です。

水戸市では、本地区の個性と魅力を磨き上げ、来て、見て楽しむ交差点の形成を目指し、在りし日の水戸城歴史的建造物のうち、大手門・二の丸角櫓・堀の復元整備を進めています。

新たな水戸のシンボルとなる大手門等の復元整備に際して、多くの皆様のご参加により歴史まちづくりの輪を広げ、未永く愛着を持って、保存、継承していただけるよう、このたび「一枚瓦城主」を創設し、皆様への寄付協力と呼びかけを開始しました。

どうか、皆様のご支援とご協力をいただきながら、日本遺産として、さらには世界遺産登録を目指すにふさわしい、魅のまち・水戸の風格ある歴史まちづくりを進めていきたいと思います。

《一枚瓦城主寄付金のご案内》

募集開始	目標額	対象
平成27年5月1日から	1億円以上	広域内外の個人、法人、団体の寄付を募集します。寄付をされた方を自らの名前を「芳名帳」に記載し、永久保存します。
一枚瓦城主		特典
3,000円（丸瓦又は平瓦）又は10,000円（丸瓦又は平瓦）のいずれかをお選びいただけます。		ご寄付いただいた金額にあわせて、特典の品をお贈りします。
丸瓦は復元整備する瓦の形にちなみ（希望者のみ）いただき、復元建物の景観に役立てさせていただきます。		
なお、現金での寄付も募ります。		
寄付の方法		
《集金用紙によるお申し込み》		
最寄りの金融機関から現金や振込でお申し込みください。振込用紙は、水戸市役所の本庁舎南側階（第1号室、二の丸角櫓付会、赤塚出張所、常盤出張所、内閣出張所、各市民センター）等に輸入付けてあります。また、ご送付いただければ、振込用紙を返送します。		
《現金によるお申し込み》		
歴史文化財源、歴史文化財センター及び市立博物館で受け付けています。		

お問い合わせ先
旧水戸城大手門等復元整備促進実行委員会
水戸市教育委員会事務局教育歴史文化財課内
TEL 029-306-8132 FAX 029-306-8693
E-mail: bmk@city.miy.jp

一枚瓦城主寄付金募集チラシ



街中に掲げられた一枚瓦城主寄付金募集の「のぼり旗」

5 概算事業費

整備を行う、大手門、二の丸角櫓、土堀の概算事業費は、用地取得費等を含め約12億円と想定します。

なお、事業費は資材価格の高騰などの社会経済情勢の変化や、整備内容により変動することと考えられますが、本市の将来の財政運営への影響を見据え、今後の事業の進捗段階においても、事業内容を十分精査し、より一層効率的かつ効果的な事業実施に努めます。

また、事業費の財源として、市民との協働による寄付金（目標額：1億円）や、集約促進景観・歴史的風致形成推進事業補助金などの国庫補助の確保に努め、実質的な本市の負担軽減を図ります。

	内容	概算事業費（想定）
1	大手門（復元整備）	410,000 千円
2	二の丸角櫓（復元整備）	280,000 千円
3	西側土堀（再生整備）	150,000 千円
4	南側土堀（再生整備）	80,000 千円
5	アプローチ	130,000 千円
6	共通経費（用地測量等）	150,000 千円
	計	1,200,000 千円

注1：概算事業費は、現段階で想定される復元整備による算出であり、今後の設計、工事等の内容及び用地交渉等により変動します。

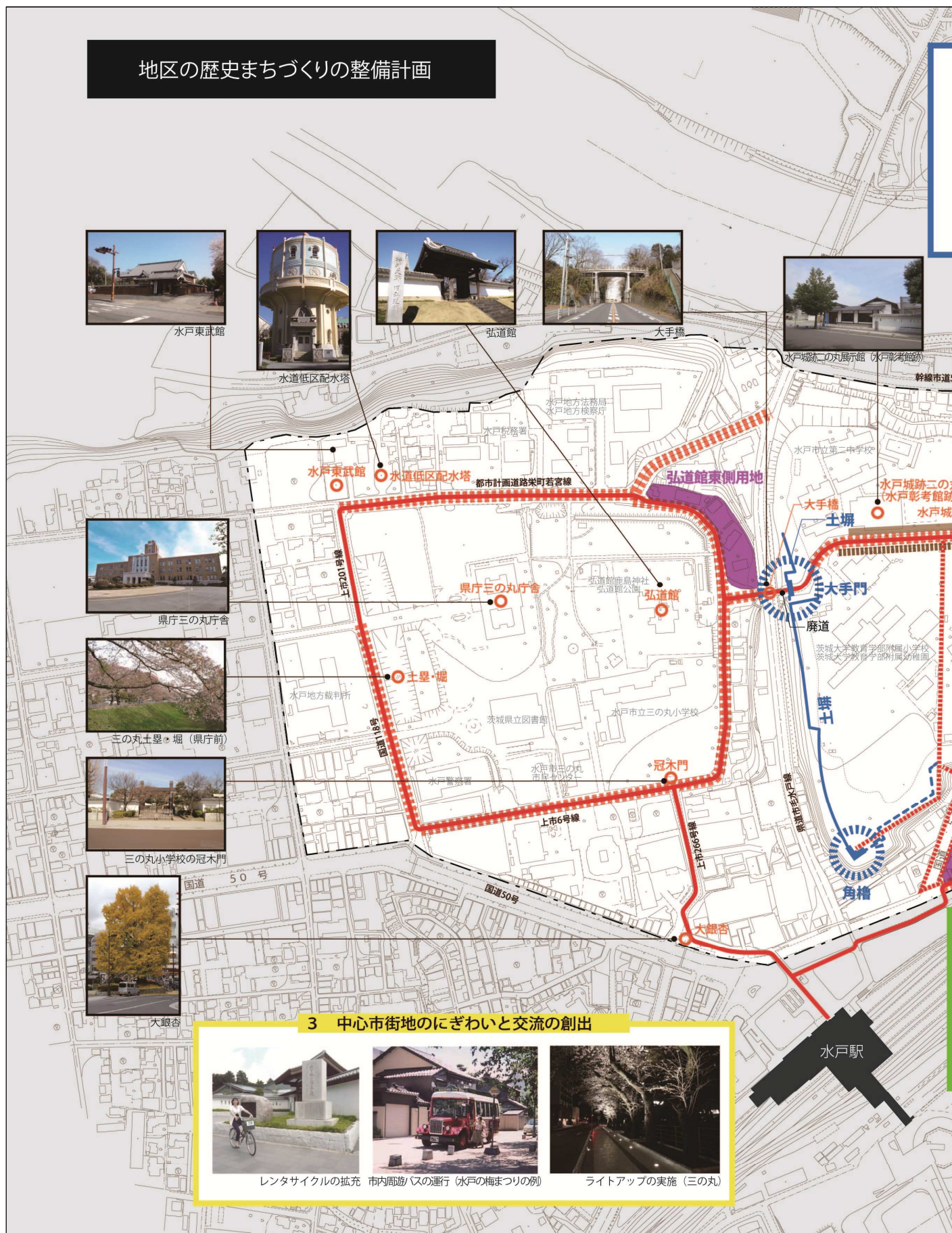
注2：消費税率を10%として算出しています。

6 整備スケジュール

2019(平成 31)年に本県で開催される「いきいき茨城ゆめ国体 2019」には県内外より多くの人々が訪れることから、これを契機とし、本市の歴史的景観を更に磨きあげることとあわせて、新たな本市の魅力として、全国に向けて情報発信するため、2019(平成 31)年までの完成を目指します。

平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
水戸城歴史的建造物（大手門、二の丸角櫓、堀）の整備				
実施設計（大手門）	用地測量 用地取得 実施設計（二の丸角櫓、堀）	用地取得 工事（大手門、二の丸角櫓、堀）	工事（大手門、二の丸角櫓、堀）	工事（大手門、二の丸角櫓、堀、アプローチ）

地区の歴史まちづくりの整備計画



1 魅力ある歴史的建造物の整備



大手門の復元 (弘道館正門から望む)



二の丸角櫓の復元 (水戸駅ペデストリアンデッキから望む)



土堀の再生 (県道市毛水戸線から望む)

2 歴史の感じられる歩行者空間の形成



歴史・観光ロードの整備



杉山門の再生



柵町坂下門の再生

4 歴史的景観等の保全と形成



屋外広告物の規制



伝統文化の適切な保護・保存 (北辰一刀流剣術)

5 推進体制の充実



市民との協働による復元 (一枚瓦城主寄付金)



街中に掲げられている「のぼり旗」

【凡例】

- 弘道館・水戸城跡周辺地区
- 回遊ルート
- 回遊ルート (検討)
- 既存
- 復元整備
- 再生整備
- 道路景観整備(促進)路線
- 白壁堀既存整備範囲
- 整備範囲
- 有効活用の検討

0 50 100 200 300 400 500m

地区の歴史まちづくりの整備計画

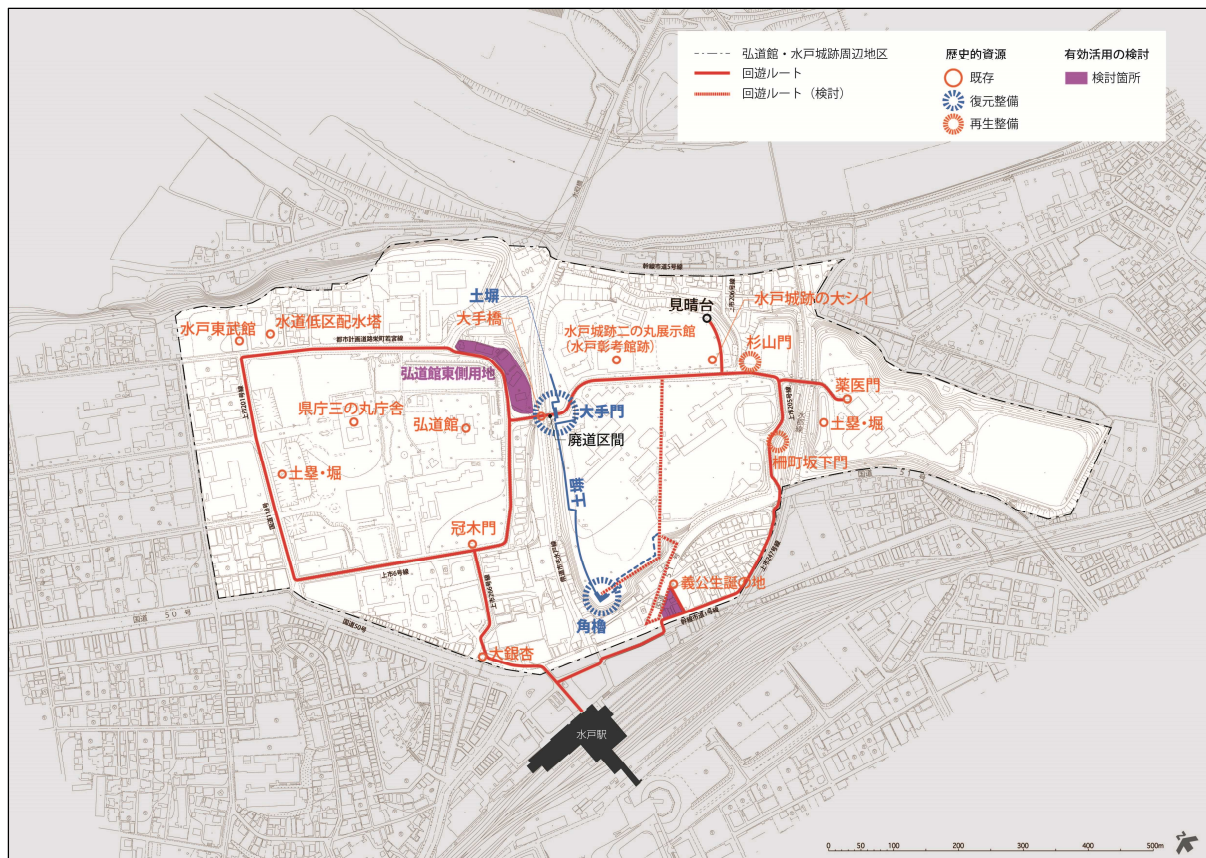
第 5 章 動線計画

第5章 動線計画

1 歩行者動線

(1) 地区の歩行者動線

水戸駅北口前と弘道館を起点として、水戸ならではの歴史的魅力を肌で実感し、水戸の歴史を学ぶことができるよう、歩いて楽しめる歩行者動線を設定します。



地区全体の歩行者動線

(2) 大手門の歩行者動線

大手門は、常時開門し、歩行者が自由に通行できる動線とします。

また、大手門に取り付ける横木（地覆）については、取り外し可能な構造とし、歩行者の通行に支障を生じないように配慮します。取り外した横木は大手門内に別途保管します。

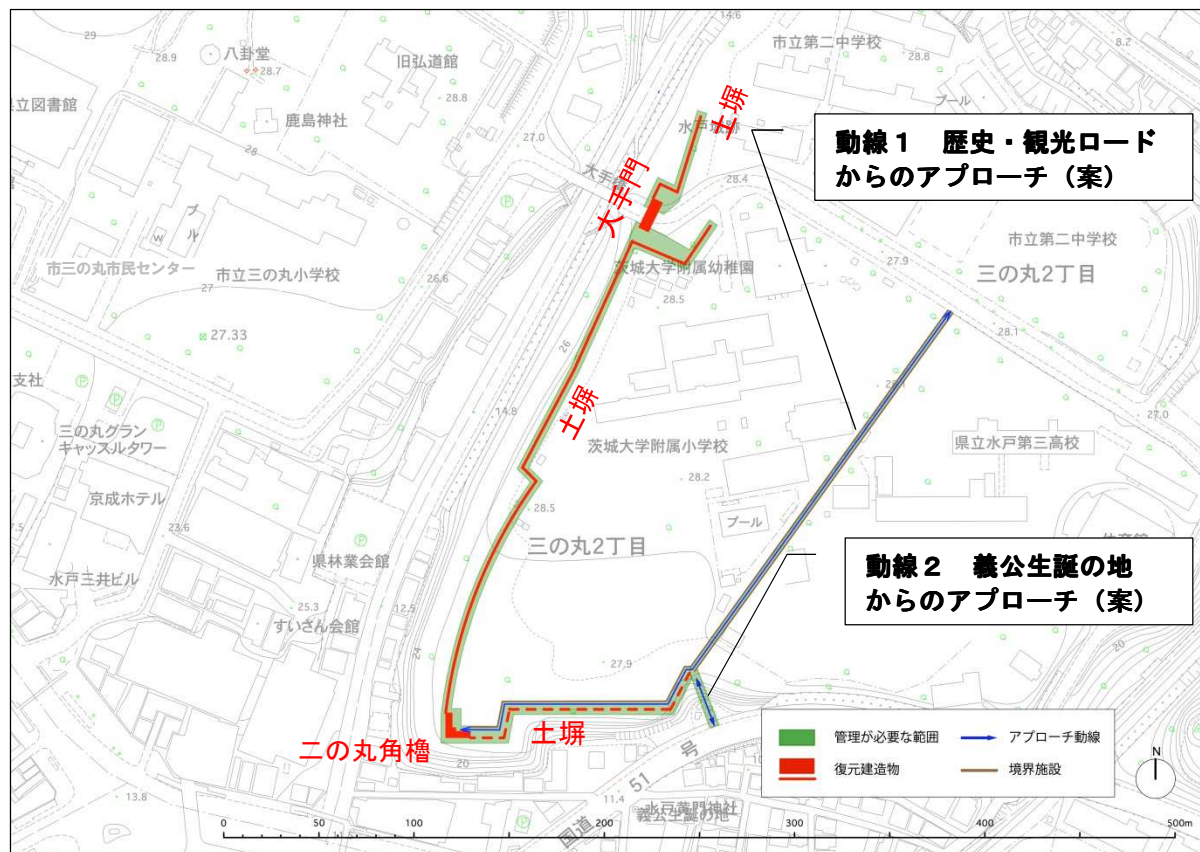


横木の取付けイメージ（弘前城）

(3) 二の丸角櫓への歩行者動線

二の丸角櫓の歩行者動線については、園児、児童生徒の安全性や、茨城大学教育学部附属小学校の「小鳥の森」をはじめとする緑地の保全、バリアフリーに十分配慮します。

大手門と二の丸角櫓をつなぐ土堀沿いのルートについては、保安や緑地保全上、動線確保が難しく、また、二の丸角櫓は、歴史・観光ロードから距離があることから、観光客の利便性を考慮し、次に掲げる歩行者動線の設定について検討を進めます。



二の丸角櫓への歩行者動線

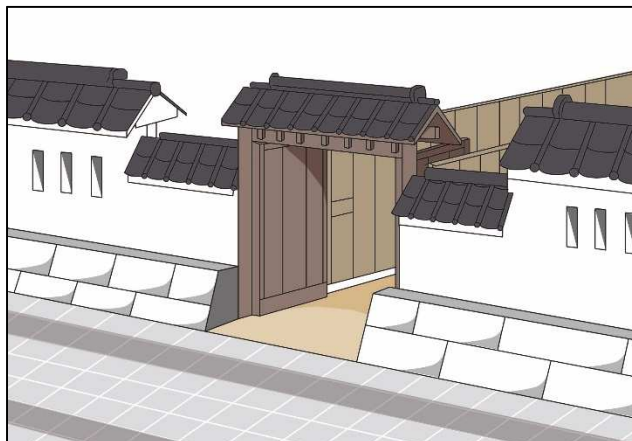


航空写真

動線1 歴史・観光ロードからのアプローチ(案)

歴史・観光ロードから二の丸角櫓にアプローチするため、茨城県立水戸第三高等学校と茨城大学教育学部附属小学校・幼稚園の境界を通り抜ける動線を設定します。

設定に当たっては、学校や幼稚園に面することから、園児、児童生徒の安全性に十分配慮するとともに、観光上の景観や通行にも配慮し、アプローチ両側の塀の仕様についても、歴史的景観に配慮しつつ、開放感のある動線とします。



景観に配慮した門塀のイメージ

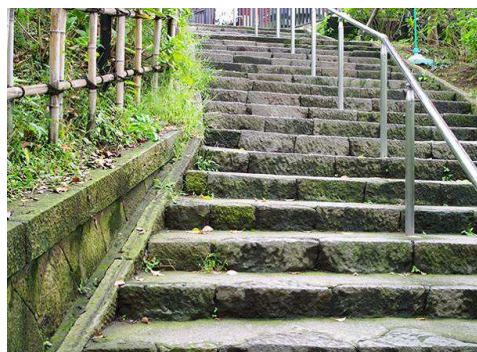
動線2 義公生誕の地からのアプローチ(案)

義公生誕の地から国道51号を渡り、南側斜面から上って動線1に接続するアプローチを設定します。

設定に当たっては、歴史的景観および周囲からの景観に配慮し、さらに自然素材を使用することで法面の自然景観にも馴染むよう配慮するとともに、昇降機の設置等によりバリアフリーに対応した動線とします。



景観に配慮した階段のイメージ（柱設置式）



景観に配慮した階段のイメージ（石製）

第6章 管理活用計画

第6章 管理活用計画

1 管理計画

(1) 大手門、二の丸角櫓、土堀の管理

大手門、二の丸角櫓、土堀の整備に当たっては、園児、児童生徒の安全性と緑地保全に配慮しながら、管理のための外構施設を設置します。

整備建造物及び外構施設の管理については、維持管理計画等を作成し、日常的な清掃、土堀外側からの景観に配慮した草刈り、整備建造物や外構施設の破損有無の確認を行い、適切な管理が行われるように努めます。

また、適切な管理が行われるように、整備建造物周辺敷地の公有化を進めます。



公有化の範囲

(2) 歩行者動線の管理

動線1（歴史・観光ロードからのアプローチ）・2（義公生誕の地からのアプローチ）による歩行者動線の管理については、園児、児童生徒の安全性とバリアフリーに配慮しながら、管理のための外構施設を設置します。

管理に当たっては、外構施設、通路、展示物の清掃や破損有無の確認等を行い、観光客に対する環境を整えるほか、良好な環境を維持することで、園児、児童生徒にとっても安全性の高い空間になるように努めます。

動線設置に伴う敷地については、無償借地、又は公有化を進めます。

(3) 緑地の保全

大手門，二の丸角櫓，土塀の整備予定地は，茨城大学教育学部附属小学校の「小鳥の森」として児童や卒業生に親しまれ，東日本大震災に伴う法面の災害復旧工事によって多くの樹木が伐採されたため，「小鳥の森」再生に向けた取組が行われています。

こうした取組に十分配慮しながら，整備後についても，学校や関係機関との協働により，緑地の保全を推進します。

2 活用計画

(1) 屋内展示

大手門、二の丸角櫓の復元整備に当たっては、水戸ならではの歴史・文化への理解を深め、新たな水戸の魅力として発信できるよう、ボランティア等との連携のもと、広く一般公開を行います。また、文教エリアの特徴を活かし、観光客への水戸城跡に対する理解を深めるほか、地域の学校教育の資源としても活用されるよう展示方法を工夫します。

復元建造物の公開に当たっては、水戸城跡に建つ復元建造物内に入ることによって、ここでしか体感することができない内部空間を味わえるようにします。

展示内容については、水戸城跡に特化した歴史や特徴のほか、復元建造物の修理方法や特徴に関する展示施設を設け、見学者の水戸城跡に関する理解をより一層深める工夫を行います。

既存の二の丸展示館と復元建造物における展示内容については、二の丸展示館では水戸城跡を含む周辺エリアを対象とし、復元建造物では水戸城跡に特化した内容とするなど、建物の立地や特徴に合わせた展示を行います。



屋内展示のイメージ（二の丸展示館）



屋内展示のイメージ（熊本城）

(2) 屋外展示

比較的距離のある二の丸角櫓まで向かう動線1（歴史・観光ロードからのアプローチ）において、期待感を湧かせる工夫をするため、次に掲げる屋外展示計画を随時企画します。屋外展示資料については、耐久性や耐水性に配慮します。

- ①解説型…水戸城跡の歴史や建造物について、歩きながら見て学べるような展示を企画します。
- ②学校参加型…文教施設が多い地区の特性を生かし、園児、児童生徒が制作した作品等を披露できるような展示を企画します。



①解説型の展示のイメージ（岸和田城）

〔出典：城めぐりチャンネル <https://akiou.wordpress.com>〕



②学校参加型の展示のイメージ
（大阪府飯盛山ハイキングコース内休憩所）

〔出典：NPO法人環境デザイン・エキスパーツ・ネットワーク〕

(3) 案内・解説板

水戸城跡地区への導入部へは、地区全体の歴史や見学施設について、各見学施設では、施設の歴史や特徴などの解説文のほか、古写真を掲載するなど、視覚的にも興味を持ってもらい、理解しやすい解説板を設置します。また、地区内を見学施設を楽しみながら回遊できるよう、行先表示等を設置します。

新規の案内・解説板の設置に当たっては、統一感のあるデザインや仕様とし、既存の案内・解説板を更新しながら設置します。

今後は、外国人観光客の増加が予想されるため、新規に設置する案内・解説板については、多言語へ対応した文章とします。

(4) 中心市街地におけるにぎわいの創出

弘道館・水戸城跡周辺地区の交流人口の増加は、交通結節点である水戸駅北口エリア、さらには、回遊できるネットワークの構築によって、中心市街地全体の交流人口にも大きな効果をもたらします。

このことにより、中心市街地のにぎわいと、商業等への経済的効果が生まれ、地域全体の活性化へと繋がります。

この効果をより高めるため、地区の歴史まちづくりと中心市街地のまちづくりを連携させた様々なソフト施策を推進することにより、中心市街地における人々の交流促進及び多様なにぎわいの創出を図るものとします。

第 7 章 関係法令との整合性

第7章 関係法令との整合性

1 文化財保護法

水戸城二の丸曲輪全域は、周知の埋蔵文化財包蔵地「水戸城跡」の範囲に該当するとともに、整備範囲は、茨城県指定史跡「水戸城跡（塁及び濠）」又は市指定史跡「水戸城跡」に指定され、指定地内における整備に当たっては、茨城県文化財保護条例第47条又は水戸市文化財保護条例第41条の規定により、現状変更の許可手続を進めます。

指定地内における歴史的建造物の復元については、文化庁文化財部記念物課が示した取扱基準（史跡等における歴史的建造物等の復元の取扱い基準）を踏まえた復元を行います。

2 道路法

大手門は、現行の市道上市205号線上に設置することとなりますが、道路上に建造物又は工作物を設置することは、道路法第32条の規定により、道路占用の許可を得ることが難しいため、道路法第10条に基づく、市道路線の一部廃止に向けた手続を進めます。

3 建築基準法

復元する大手門、二の丸角櫓については、主要構造部を木造として、水戸城の歴史に関する展示施設を設置するなど、見学者が内部に立ち入ることを想定した活用方策を導入します。

当時のまま復元しようとする、一部の基準に適合しないことから、建築基準法第3条第1項第4号の適用除外の認定に向けた検討を進めます。

また、建築基準法の適用除外となった場合でも、構造・防火などの安全性の確保に努めます。

4 都市緑地法

大手門、二の丸角櫓は、特別緑地保全地区の範囲内に該当していますが、都市緑地法第14条第8項の規定により、地方公共団体が行う行為については、特に許可を要しません。

しかし、周辺景観の保全の観点から、整備に際し、茨城大学教育学部附属小学校敷地内の小鳥の森など、緑地の保全に努めます。

5 水戸市風致地区条例

大手門、二の丸角櫓及びその周辺は、三の丸風致地区に含まれることから、水戸市風致地区条例に基づく風致保全方針に合致した歴史的資源と調和した景観の維持・保全に努めます。

6 景観法

建築物の新築等に当たっては、水戸市景観計画で定める「大規模建築物等の景観形成基準」に適合するよう配慮し、水戸の歴史と文化が感じられる景観の形成に努めます。

7 水戸市屋外広告物条例

大手門，二の丸角櫓及びその周辺は，水戸市屋外広告物条例において，大部分が第1種禁止地域に指定され，屋外広告物の掲出が最低限に規制されているほか，屋外広告物特別規制地区に指定されていることから，屋外広告物の掲出にあたっては，歴史的な景観との調和が図られたものとしします。

8 土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律

大手門，二の丸角櫓は，土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律第6条に定める土砂災害警戒区域（イエローゾーン）内にかかっているため，建築に当たっては，同法第7条の規定により，市地域防災計画に基づきながら，避難経路を確保するなど，警戒避難体制を整備するように努めます。

9 消防法

二の丸角櫓，大手門は，その内部に見学者が立ち入ることとなるため，「図書館・博物館・美術館その他これらに類するもの」（第8項，消防法施行令別表第1）に分類されることから，屋内消火栓の設置や自動火災報知設備を適切に設置することとしします。

復元の意義

ここにいう歴史的建造物等の復元とは、史跡等の構成要素である建造物その他の工作物のうち、現存していないものを、当時の規模・構造・形式で、原位置に再現しようとする行為である。史跡等の構成要素でない建造物、客観的な根拠によって存在を証明することができない建造物等を新たに設けようとする行為は、この基準における復元には該当しない。

審査指針

歴史的建造物等の復元を許容するか否かは、具体的な復元の計画について、次の各項目に関し、総合的に判断し、決定するものとする。

● 基本的事項

- ① 歴史的建造物等の復元が、当該史跡等の正しい理解にとって支障となるものではないこと。例えば、存在・形態等に関する根拠が薄弱なもの、当該史跡等の有する歴史的意義との係わりが薄いもの等の復元は許容しない。
- ② 歴史的建造物等の復元及びその工事によって、保存すべき遺構等を損傷することとならないものであること。
- ③ 当該史跡等の活用にとって、歴史的建造物等の復元が最も適した方法であると考えられること。例えば遺構の保存状況が極めて良好であり、その遺構自体を公開することが、国民による当該史跡等の理解・活用にとって最も適切であると認められる場合は、その遺構に係わる歴史的建造物等の復元は許容しない。
- ④ 当該史跡等が現在までの時代的変遷のなかで有している全ての歴史的意義等に鑑み、その建造物等を復元することが、その史跡等を理解する上で最も適切なものと認められるものであること。例えば、当該建造物等が存在しなくなった過程に格別の歴史的な意義が認められる場合は、その復元は許容しない。
- ⑤ 歴史的建造物等の復元が、当該史跡等の歴史的・自然的風致・景観と総体として整合するものであること。
- ⑥ 歴史的建造物等の復元が、当該史跡等の全体的な保存・整備の在り方と整合するものであること。
- ⑦ 保存管理計画、整備計画等当該史跡等の保存・管理・活用に関する総合的計画が策定されており、歴史的建造物等の復元に関する上記各事項についての方針及び復元後の建造物等の保存・管理方針が整っていること。

● 技術的事項

- ① 復元しようとする歴史的建造物等について、その位置・規模・構造・形式等につき、次のア及びイによる十分な根拠があること。
ア. 次のいずれかの資料等
[中世以前の建造物等の場合]

- a. 復元の対象とする歴史的建造物等が別位置に移築され現存している場合における、当該建造物等の調査資料。
- b. 歴史的建造物等が失われる前の調査・修理に係る報告書・資料等。
- c. 復元しようとする歴史的建造物等又はこれと同時期・同種の建造物等の指図・絵画・写真・模型・記録等の史料。

- d. 現存する同時期・同種の建造物等。

[近世・近代の建造物等の場合]

- a. 復元の対象とする歴史的建造物等が別位置に移築され現存している場合における、当該建造物等の調査資料。
- b. 歴史的建造物等が失われる前の調査・修理に係る報告書・資料等。
- c. 復元しようとする歴史的建造物等の指図・絵画・写真・模型・記録等の史料で精度が高く、良質のもの。
- イ. 発掘調査結果（明確な遺構が確認され、出土した建築部材等により当該建造物等の位置・規模・構造等に関する知見が広く学界において承認されている場合に限る。）その他の復元の現地を確定するのに必要な資料等。
- ② 復元の設計は、上記①の根拠や同時期・同種の建造物等の遺構又は建築部材その他の遺物に基づいて、規模（桁行・梁間等）・構造（基礎・屋根形式等）・形式等について極めて高い蓋然性を持つものであること。
- ③ 復元して用いる材料・工法は、原則として、同時代のものを踏襲しかつ、当該史跡等の所在する地方の特性等を反映しているものであること。

その他

歴史的建造物等の復元を許容する場合にあつては、次の事項を確認するものとする。

- ① 復元する歴史的建造物等については、その構造及び設置後の管理の観点からの安全性が確保されていること。
- ② 復元完了後の史跡等の管理について、十分な行財政上の措置が確保されていること。
- ③ 復元された歴史的建造物等を施設として活用する場合にあつては、その活用の内容は当該史跡等の保存・活用と係わりがあり、かつ、当該史跡等にふさわしいものであること。
- ④ 復元のための調査の内容、復元の根拠、復元の内容に複数の案があった場合における他の案の内容・複数案の取捨選択の検討内容、復元の工事内容等を記録にとどめるとともに、それらの概要を復元建物等の所在場所に掲出する等の措置をとり、史跡等の正しい理解に支障が生じないようにすること。

第 8 章 推進体制

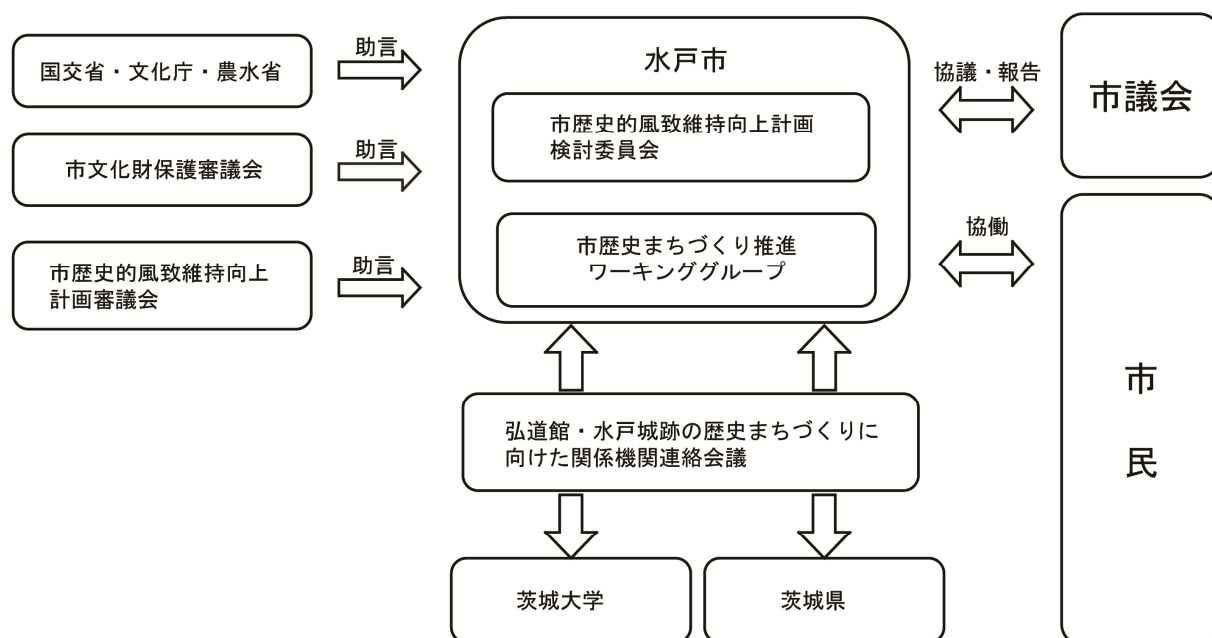
第8章 推進体制

事業の着実な推進に向け、庁内の関係各課で構成する市歴史的風致維持向上計画検討委員会等において、適切な進行管理を行います。

また、本地区の歴史まちづくりを円滑に推進するため、関係機関等で構成する連絡会議の中で、十分な協議を行います。

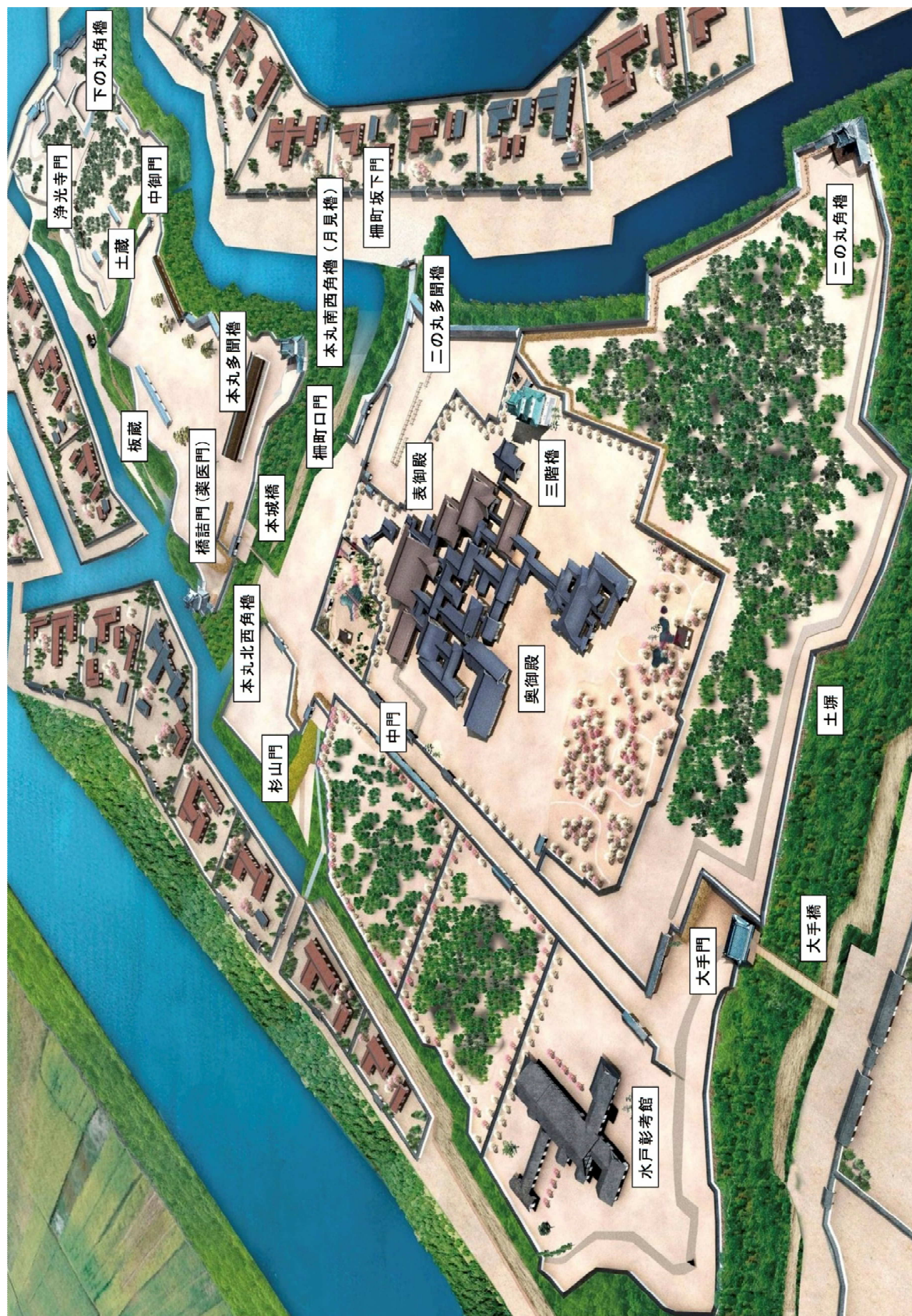
さらに、水戸城歴史的建造物の整備に当たっては、本市の歴史まちづくりに向けての市民参加の気運を醸成するため、地域や旧水戸城大手門等復元整備促進実行委員会と連携をより一層強化し、議会と協議しながら、市民との協働による取組を進めます。

推進体制のイメージ



参考資料

1 水戸城に関する絵図及び古写真



参考資料

[参考]江戸時代の水戸城跡周辺地区（西から）
復元：三浦正幸 CG 制作：株式会社エス

【絵図資料一覧表】

資料名称	年代	分類	サイズ (cm)	所蔵	記載の有無	
1 常陸国水戸城絵図	正保期	城絵図	419.0×250.0	国立公文書館 内閣文庫	大手門 ○	二の丸角櫓 ○
2 水戸城実測図	正保～明暦期	—	—	水戸市立博物館	—	—
3 水戸城下図	文化～天保期	—	63.0×163.0	幕末と明治の博物館	—	—
4 水戸城下図	1826 (文政9)	—	92.0×134.0	徳川ミュージアム	—	—
5 水戸城下絵図	不明	実測 配置図	142.0×154.0	茨城県立図書館	大手門 ○	二の丸角櫓 ○
6 常州水戸城図	不明	—	79.5×109.5	茨城県立歴史館	—	—


【古写真一覧表】

資料名称	年代	方向	出典	記載の有無	
1 大手橋越しの大手門①	不明 (明治初年頃と推定)	西側正面	「大日本全国名所 一覧」	大手門 ○	二の丸角櫓 ○
2 大手橋越しの大手門②	不明 (明治中頃以降と推定)	西側正面	水戸市立博物館	—	—
3 大手橋越しの大手門③	不明 (明治中頃以降と推定)	西側正面	「大日本全国名所 一覧」	—	—
4 南西側から大手門と大手橋を眺める	不明 (明治中頃以降と推定)	南西側より	水戸市立博物館	—	—
5 本丸南西角櫓と柵町坂下門①	不明 (明治期と推定)	南西側	文化財建造物保存 技術協会	—	—
6 本丸南西角櫓と柵町坂下門②	不明 (明治期と推定)	南西側	水戸市立博物館	—	—
7 本丸南西角櫓と柵町坂下門③	不明 (明治期と推定)	南西側	水戸市立博物館	—	—
8 本丸南西角櫓	不明 (明治期と推定)	南西側	水戸市立博物館	—	—
9 水戸城南側 (柳堤 俗称新道) からの遠景	不明 (明治期と推定)	遠景	水戸市立博物館	—	—

絵図資料

<p>1 常陸国水戸城絵図</p>	
<p>年代： 正保期</p>	
<p>分類： 城絵図</p>	
<p>サイズ： 419.0×255.0(cm)</p>	
<p>所蔵： 国立公文書館内閣文庫</p>	
<p>【概要】 正保期，江戸幕府が諸国に命じて作成された国絵図のうち の一枚。水戸城に加えて，城下 町水戸の武家地・町人地・社寺 地の配置が描かれ，堀・千波湖 の広さや深さも記載されている。 櫓・門については簡略的に 姿図が描かれ，位置と概略がわ かる。</p>	

参考資料

<p>2 水戸城実測図</p>	
<p>年代： 不明</p>	
<p>分類： 実測配置図</p>	
<p>サイズ： 142.0×154.0(cm)</p>	
<p>所蔵： 茨城県立図書館</p>	
<p>【概要】 本丸・東二の丸・二の丸が描 かれている。堀や距離を実測し た図。城内建造物は赤色にて示 され，外形の実測値が描きこま れている。</p>	

古写真資料

1 大手橋越しの大手門(1)

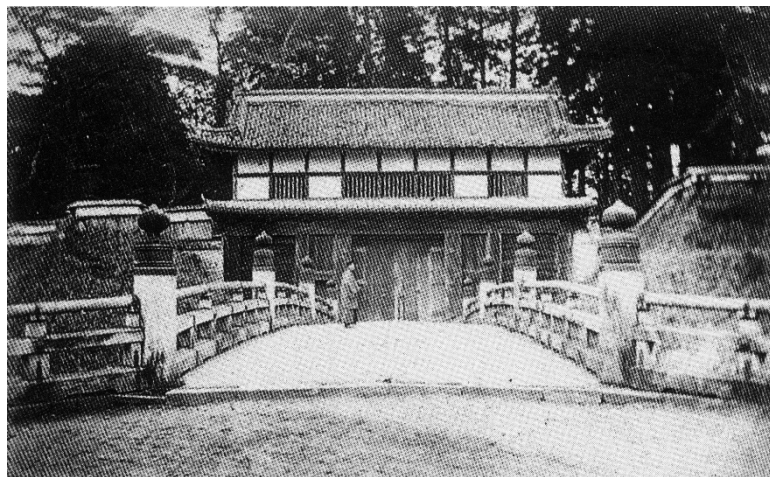
年代： 不明(明治初年頃と推定)

方向： 西側正面

出典：「大日本全国名所一覧」

【概要】

大手橋越しの大手門を撮影した一枚。土塁・土塀も大手門の左右に写る。



2 大手橋越しの大手門(2)

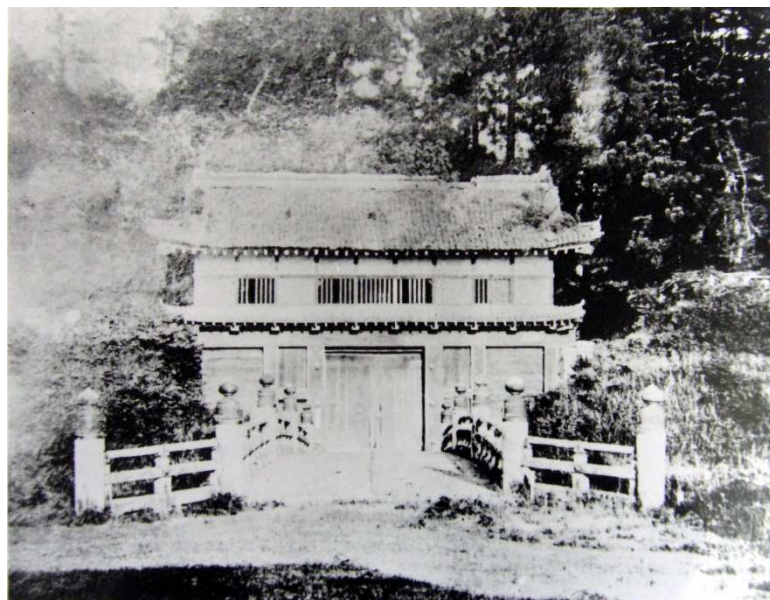
年代： 不明(明治中頃以降と推定)

方向： 西側正面

出典：水戸市立博物館

【概要】

大手橋越しに大手門を撮影した一枚。「大手橋越しの大手門(1)」に比べると、土塀が失われ、大手門本体も棟や連子窓が破損している様子がわかる。(1) よりも後の撮影と判断される。



<p>3 大手橋越しの大手門(3)</p>	
<p>年代： 不明(明治中頃以降と推定)</p>	
<p>方向： 西側正面</p>	
<p>出典：「大日本全国名所一覧」</p>	
<p>【概要】 大手橋越しの大手門を撮影した一枚。「大手橋越しの大手門(2)」と同じ写真をトリミングしたものと思われる。</p>	

<p>4 南西側から大手門と大手橋を眺める</p>	
<p>年代： 不明(明治中頃以降と推定)</p>	
<p>方向： 南西側より</p>	
<p>出典： 水戸市立博物館</p>	
<p>【概要】 南西側より大手門を大手橋とともに撮影した一枚。破れた跡あり。北側には土塀が確認出来る。棟や連子窓の破損もなく、「大手橋越しの大手門(3)」よりも前に撮影されたものと考えられる。妻面が若干写りこんでいる。</p>	

5 本丸南西角櫓と柵町坂

下門(1)

年代： 不明(明治期と推定)

方向： 南西側

出典：文化財建造物保存技術協会

【概要】

本丸角櫓と柵町坂下門を撮影した一枚である。



6 本丸南西角櫓と柵町坂

下門(2)

年代： 不明(明治期と推定)


方向： 南西側


出典：水戸市立博物館


【概要】

本丸角櫓と柵町坂下門を撮影した一枚。写真上から塗料にて大幅に修正されているため、細部は不明瞭である。



<p>7 本丸南西角櫓と柵町坂下門(3)</p>	
<p>年代： 不明(明治期と推定)</p>	
<p>方向： 南西側</p>	
<p>出典： 水戸市立博物館</p>	
<p>【概要】 本丸角櫓と柵町坂下門を撮影した一枚。写真上から塗料にて大幅に修正されているため、これも細部は不明である。</p>	

<p>8 本丸南西角櫓</p>	
<p>年代： 不明(明治期と推定)</p>	
<p>方向： 南西側</p>	
<p>出典： 水戸市立博物館</p>	
<p>【概要】 城南側から本丸角櫓を見上げて撮影した一枚。角櫓部分は霞んでおり、細部は不明瞭だが、修正は行われていない。写真左には柵町坂下門の一部が写る。門に取り付けられた柵の様子から「本丸角櫓と柵町坂下門(1)」とは異なる時期に撮影されていることが分かる。</p>	

9 水戸城南側(柳堤俗称新道)からの遠景	 <p>市制施行以前の史跡</p>
年代： 不明(明治期と推定)	
方向： 遠景	
出典： 水戸市立博物館	
【概要】	

2 水戸城に関する年表

西暦	和暦	水戸城の出来事	日本の出来事	常陸国 水戸地域の出来事
1185 年	文治元年		平家滅亡。源頼朝，諸国に守護・地頭を配置。	
1189 年	文治 5 年			常陸国守護に八田知家。佐竹秀義も頼朝の配下となる。
1190 年	建久元年	馬場大掾資幹はこれより前に水戸の地に館を置いたと思われる。(現・水戸一高グラウンドのあたり)		
1192 年	建久 3 年		源頼朝，征夷大將軍となる。	馬場大掾資幹，府中及び周辺の地頭職を幕府から認められる。
1219 年	承久元年		三代将軍源実朝，暗殺される。	
1221 年	承久 3 年		承久の変。	
1333 年	元弘 3 年		鎌倉幕府が滅亡。	
1334 年	建武元年		建武の新政。	
1335 年	建武 2 年		中先代の乱。足利尊氏，鎌倉において建武政権に反旗。	佐竹義貞は足利尊氏に応じ，尊氏が武家政治を再興すると常陸守護となる。
1336 年	建武 3 年		湊川の戦い。足利尊氏入京。「建武式目」制定。	那珂通辰，佐竹氏・馬場大掾氏に攻められ通泰を残し滅亡。
1338 年	延元 3 年		足利尊氏，征夷大將軍となる。	
1387 年	元中 4 ・嘉慶元年			難台城の戦いおこる。江戸通景に大掾氏所領の河和田城が与えられる。
1392 年	元中 9 ・明德 3 年		南北朝の合一。	
1399 年	応永 6 年		応永の乱おこる。	
1400 年	応永 7 年			大掾満幹，水戸の居館を修築。
1416 年	応永 23 年		上杉禅秀の乱おこる。	大掾満幹，上杉禅秀の乱に加わり敗れて関東管領方に降伏。河和田城の江戸通景は関東管領側につく。
1426 年	応永 33 年	江戸通房，水戸城を占領する。		
1429 年	永享元年			大掾満幹とその子慶松が管領足利持氏に殺され，大掾氏の水戸地方における勢力は失われた。
1438 年	永享 10 年		永享の乱おこる。	
1441 年	嘉吉元年		嘉吉の乱おこる。	

1465 年	寛正 6 年			江戸通房没。
1467 年	応仁元年		応仁の乱おこる。	
1496 年	明応 5 年	江戸通雅の在世中，明 応年間に水戸城内郭周 辺に宿城が開かれた。		
1510 年	永正 7 年			佐竹氏，江戸氏に対し 一家同位を約す。江戸 通雅没。
1522 年	大永 2 年	江戸氏，和光院を宿城 から三の丸に移す。		
1535 年	天文 4 年			江戸通泰没。
1547 年	天文 16 年			佐竹義昭と江戸忠通の 争いがおこる。（～ 1550）
1551 年	天文 20 年			江戸氏，再び佐竹氏の 配下となる。
1560 年	永禄 3 年		桶狭間の戦い。	
1568 年	永禄 10 年		織田信長，足利義昭を 奉じて入京。	
1570 年	元亀元年		姉川の戦い。	
1573 年	天正元年		信長，足利義昭を追放， 足利幕府滅亡。	
1582 年	天正 10 年		本能寺の変，織田信長 没。 豊臣秀吉による太閤検 地（～1598）が行われ る。 山崎の合戦で，豊臣秀 吉が明智光秀を討伐。	
1590 年	天正 18 年	この年の春，佐竹義宣 が水戸城を攻略。江戸 氏滅亡。	豊臣秀吉，小田原討征 で全国統一。	佐竹義宣，小田原討征 に参戦，秀吉より知行 を受ける。また，府中 の大掾清幹を滅ぼす （大掾氏滅亡）。
1591 年	天正 19 年	佐竹義宣，太田から水 戸城へ移る。	秀吉，関白の職を秀次 に譲り，太閤となる。	義宣，南方三十三館の 主を謀殺する。
1593 年	文禄 2 年	義宣，9 月より府城建 設（堀・土塁）。家臣団 の屋敷割を指示。 11 月，御小屋造にとり かかる。家中屋敷の普 請が行われる。		
1596 年	文禄 5 年	大手橋普請（文禄五年 二月の銘が入った擬宝 珠あり）。		
1598 年	慶長 3 年		豊臣秀吉没。	
1599 年	慶長 4 年	7 月 23 日，義宣「本丸 作事」を指令。		

1600 年	慶長 5 年		関ヶ原の戦がおこる。	
1601 年	慶長 6 年	大手門普請（肘壺に「慶長六年辛辰七月吉日」と刻まれた扉があったと伝えられる）。		
1602 年	慶長 7 年	正月，「三戸普請」のため家臣団に「百石ニ三人役」という基準で公役を賦課。		この年，佐竹義宣秋田へ移封される。 家康の第 5 子武田信吉が水戸に就封（15 万石）。
1603 年	慶長 8 年		徳川家康征夷大將軍。 江戸幕府創始。	武田信吉水戸で病死。 家康の第 10 子徳川頼宣，水戸に就封（20 万石）。
1607 年	慶長 12 年		尾張徳川家創始。	
1609 年	慶長 14 年			徳川頼宣に代わり，家康第 11 子徳川頼房，水戸に就封（25 万石）。水戸徳川家創始。
1610 年	慶長 15 年			備前堀ができる。
1614 年	慶長 19 年		大坂冬の陣がおこる。	
1615 年	元和元年		大坂夏の陣により，豊臣氏滅亡。 一国一城制。武家諸法度，禁中並公家諸法度，諸宗諸本山法度など発令。 紀州徳川家創始。	
1622 年	元和 8 年	このころから水戸城東側低湿地を埋め立てて町を開く。		
1624 年	寛永元年			寛永年間に水戸藩の定府制と御三家の格式が確立した。 このころ湊（現ひたちなか市）に浜御殿ができる。
1625 年	寛永 2 年	水戸城と城下町の拡張が始まる。 佐竹氏時代の二の丸を本丸とし大手橋を造った。二の丸修造。		町人を田町（下町の埋め立て地）に移住させて商工業の面目を一新。また，寺社の移転も行われた。
1628 年	寛永 5 年	本丸多聞，二の丸曲輪，田町水門などの普請が行われた。		この年，徳川光圀が水戸城下に生まれる。
1629 年	寛永 6 年	12 月までに城の諸門ができ，その番所守衛の制が定められた。		

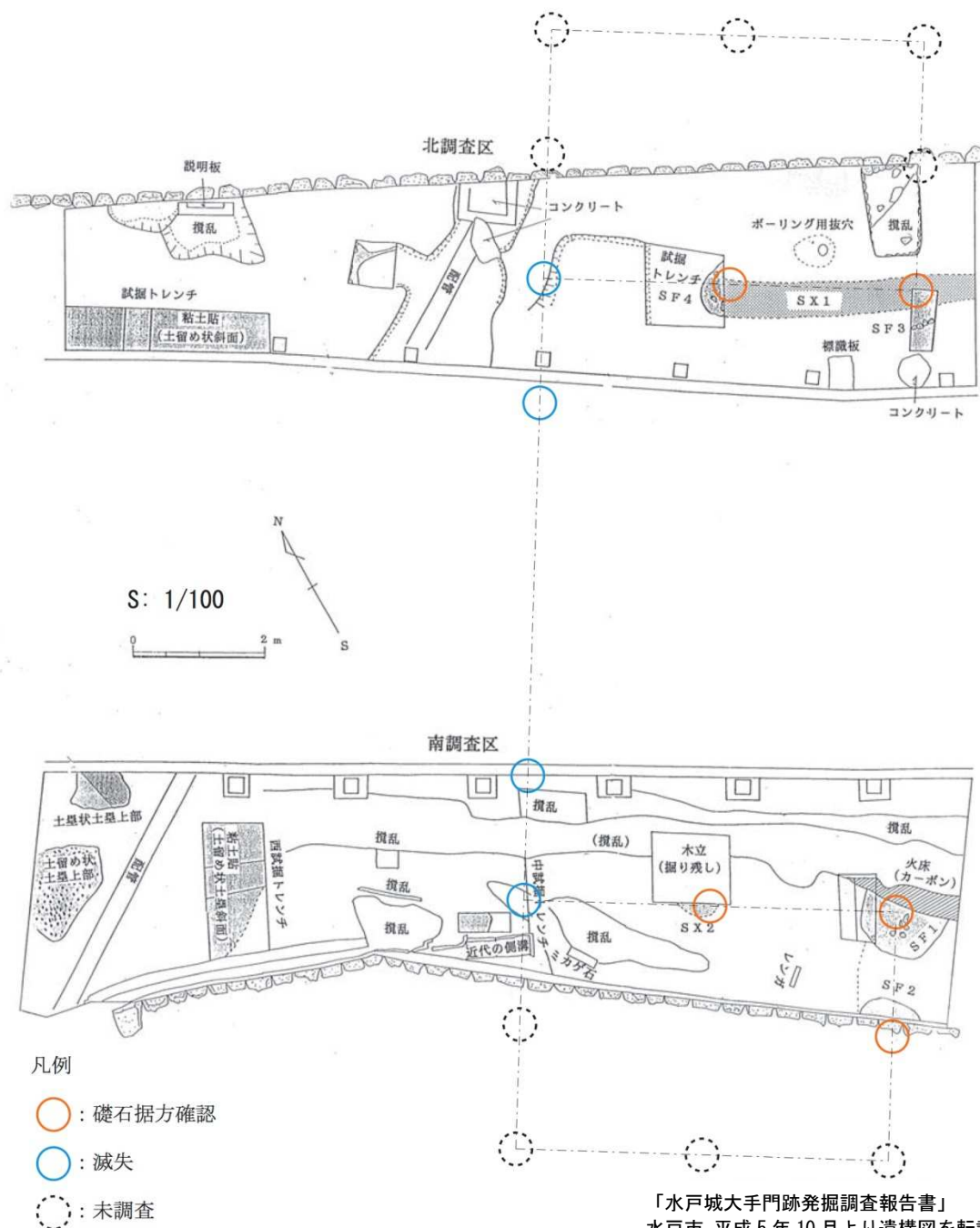
1635 年	寛永 12 年		外様大名の参勤交代制が確立。	
1637 年	寛永 14 年		島原の乱起こる。(～1638)	
1638 年	寛永 15 年	水戸城惣曲輪の普請が進捗。三の丸の南北の郭門，南見付，荒神見付などができる。普請の惣奉行は家老の松平重成，奉行は望月恒隆。		
1639 年	寛永 16 年		鎖国の完成。	
1644 年	正保元年		諸大名に国絵図作成が命じられる。	
1651 年	慶安 4 年	上町と下町の間に新道ができる。(光圀がこの新道に柳を植え，1690 年に柳堤と名付けた)		
1657 年	明暦 3 年			光圀が駒込に「史局」開設。
1658 年	万治元年			小場江用水ができる。
1661 年	寛文元年	水道普請，本一丁目会所の普請，町中制度の制定。		徳川頼房没 (59 才)。徳川光圀 2 代藩主となる。
1663 年	寛文 3 年			笠原水道が完成する。
1665 年	寛文 5 年			見川の緑岡御殿造営，1667 年竣工し，亭を高枕亭，山を君子林と名付けた。1707 年破却。
1666 年	寛文 6 年			寺社整理による城下寺院の移転と取り潰しが行われる。以後続く。
1667 年	寛文 7 年			馬場村に馬場別館造営 (1809 年太田へ移転)。
1672 年	寛文 12 年			駒込の「史局」を小石川本邸に移し，「彰考館」と名付けた。
1683 年	天和 3 年			笠原に漱石所が造られる。1707 年に毀された。
1696 年	元禄 9 年	中御殿を造る。		
1697 年	元禄 10 年			浜御殿を移して御殿を新たに造り資賓閣と名付ける。
1698 年	元禄 11 年	彰考館を江戸から水戸の二の丸に移転。		
1700 年	元禄 13 年			徳川光圀没 (73 才)。
1701 年	元禄 14 年			水戸藩 35 万石となる。
1702 年	元禄 15 年		全国絵図完成。	
1724 年	享保 9 年	水戸城三階櫓，東照宮		

		の鐘楼が銅葺きとなる。		
1746 年	延享 3 年	中御門（江戸氏時代の大手門：「応永七辰建始」の銘が肘木の内面に発見された）建て替え。		
1759 年	宝暦 9 年			田見御殿（貴楽亭）が、造営される。
1764 年	明和元年	12 月 27 日，城内右筆方から出火。屋形，三階櫓を焼失。		
1765 年	明和 2 年	10 月，城中造営地鎮祭。		
1766 年	明和 3 年	城中玄関の棟上げ。		
1767 年	明和 4 年	6 月，大広間の棟上げ。		
1769 年	明和 6 年	中央南端に三階櫓（外観 3 重内部 5 階）を造営。		
1829 年	文政 12 年			徳川斉昭 9 代藩主となる。
1841 年	天保 12 年			藩校弘道館，仮開校。
1844 年	弘化元年			斉昭は幕命により隠居のうえ謹慎処分。藤田東湖らも処罰。
1853 年	嘉永 6 年		アメリカ特使ペリー，浦賀で開国を要求。ロシア特使プチャーチン。長崎に入港し国書を提出。	斉昭，幕府の海防参与となる。
1854 年	安政元年			日米和親条約締結。日英・日露和親条約締結。斉昭海防参与を辞める。那珂湊に反射炉を造る。
1855 年	安政 2 年		幕府，将軍の跡継ぎ問題で二派の争いが発生。	江戸大地震で，藤田東湖，戸田忠敬没。
1857 年	安政 4 年			藩校弘道館本開館。
1858 年	安政 5 年		アメリカを始め五カ国と通商条約締結。安政の大獄始まる。	斉昭，慶喜江戸城に押しかけ井伊直弼を面責。大老井伊直弼将軍に徳川慶福を推す。
1859 年	安政 6 年		横浜開港。	斉昭永蟄居を命じられる。
1860 年	安政 7・万延元年		東禅寺事件	水戸浪士ら桜田門外で大老井伊直弼を襲撃する。徳川斉昭没（61 才）。

1862 年	文久 2 年		坂下門外の変，生麦事件おきる。	
1863 年	文久 3 年		薩英戦争おきる。8 月 18 日の政変。	
1864 年	元治元年		英・米・仏・蘭四カ国 連合艦隊下関砲撃。 蛤御門の変おきる。幕府，第一次長州征伐を行う。	筑波山に藤田小四郎ら（天狗党）挙兵。
1865 年	慶応元		安政諸条約を勅許。一橋慶喜 15 代将軍となる。	天狗党 350 余名，敦賀で処刑。
1866 年	慶応 2 年		第二次長州征伐。	
1867 年	慶応 3 年		徳川慶喜，大政を奉還する。王政復古の大号令発せられる。	
1868 年	明治元年	弘道館の戦い（弘道館に拠った諸生派と水戸城側の天狗派との戦闘。この戦いで城内の多くの建物が焼失した。）	鳥羽伏見の戦い（戊申戦争～1869）江戸開城。	
1869 年	明治 2 年		五稜郭陥落。版籍奉還，旧藩主を藩知事とする。	徳川昭武水戸藩知事となる。
1871 年	明治 4 年		廃藩置県 茨城県できる。	
1872 年	明治 5 年	7 月，水戸城放火事件（三階櫓を残し焼失。）		

3 発掘調査結果

水戸城跡第1次発掘調査 (調査地：大手門跡 調査期間：平成5年8月20日～9月2日)



参考資料

概要

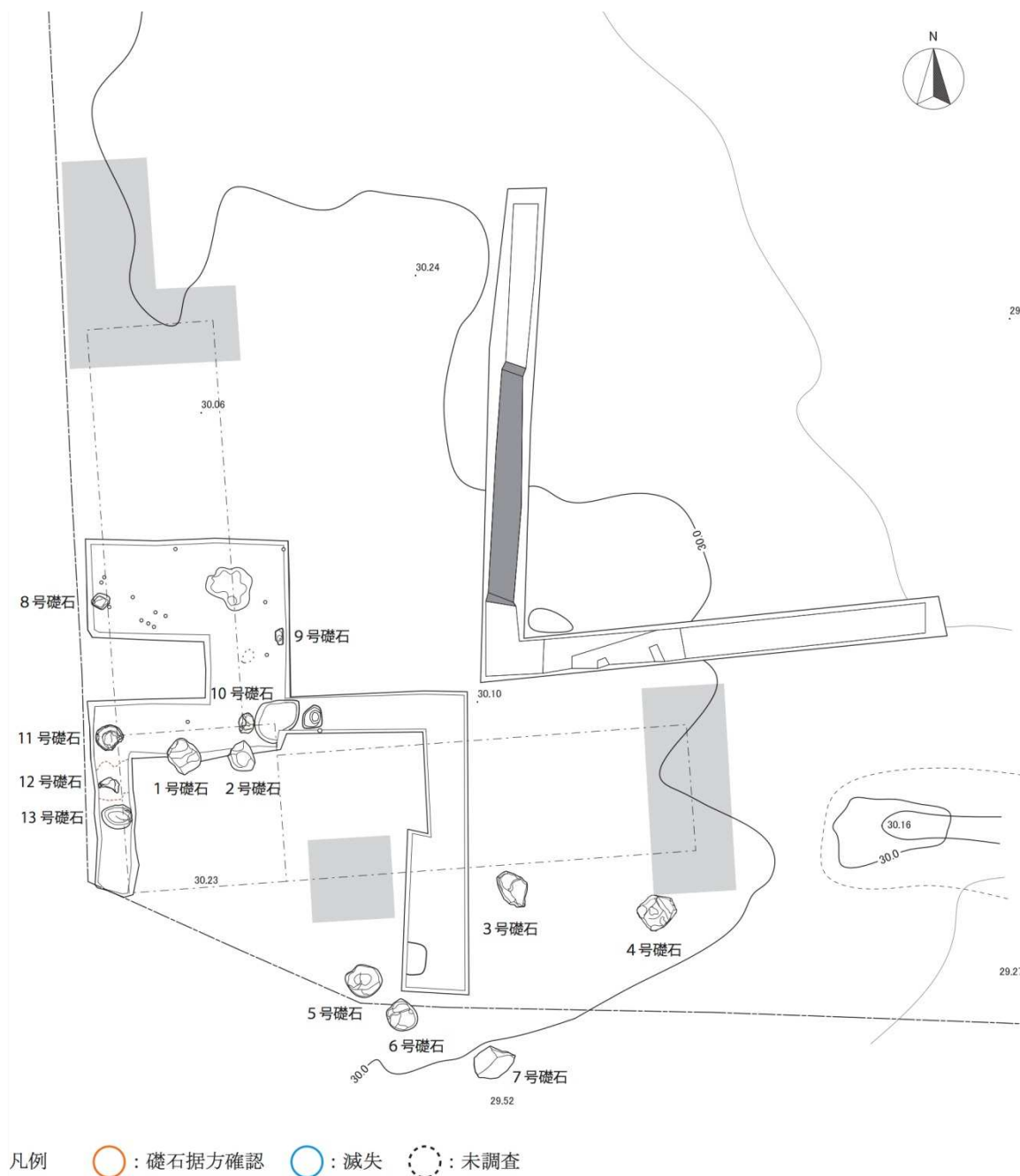
調査では過去の道路敷設に伴う攪乱などから、礎石は検出されなかったが、礎石据方が5箇所確認されている(うち南側調査区SX2は確定ではない)。これにより、大手門の立地位置、基準尺(1間=6尺3寸)の採用などを知ることができる。また、一部地覆石の据方と思われる遺構も検出されており、平面計画推定の材料ともなる。

発掘調査から判明する事項

- ・大手門原位置 ・創建時の基準尺 1間=6尺3寸 ・平面規模, 平面計画の一部

水戸城跡第 24 次発掘調査 (調査地：三の丸 2-6-8 調査期間：平成 22 年 7 月 27 日～8 月 27 日 調査面積：51 m²)

参考資料



概要

報告書作成時点で調査中のため空欄。

発掘調査から判明する事項

- ・二の丸角櫓立地位置 ・創建時の基準尺 1 間=6 尺 3 寸 ・平面計画の一部 ・瓦など細部意匠の一部(出土遺物)

4 計画策定の経緯

開催日	会議・内容等
平成 27 年 5 月 21 日	平成 27 年度第 1 回水戸市歴史的風致維持向上計画協議会開催 ・弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史まちづくり基本構想について
平成 27 年 5 月 29 日	平成 27 年度第 1 回弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史まちづくりに向けた関係機関連絡会議開催 ・弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史まちづくり基本構想について
平成 27 年 7 月 1 日	水戸城大手門，二の丸角櫓，塀の復元整備に係る関係課長会議開催 ・水戸城大手門，二の丸角櫓，塀の復元整備に係る諸課題について ・水戸城大手門，二の丸角櫓，塀の復元整備スケジュールについて
平成 27 年 7 月 22 日	平成 27 年度第 1 回水戸市歴史まちづくり推進ワーキンググループ開催 ・水戸城大手門等復元整備基本計画（素案）について
平成 27 年 7 月 28 日	平成 27 年第 1 回水戸市文化財保護審議会開催 ・水戸城大手門等の復元整備について
平成 27 年 8 月 17 日	平成 27 年度第 1 回水戸市歴史的風致維持向上計画検討委員会開催 ・水戸城大手門，二の丸角櫓，土塀復元整備基本計画（素案）について
平成 27 年 10 月 9 日	政策会議開催 ・水戸城大手門，二の丸角櫓，土塀整備基本計画（案）について
平成 27 年 10 月 16 日	平成 27 年第 11 回教育委員会定例会 ・水戸城大手門，二の丸角櫓，土塀整備基本計画（案）について
平成 27 年 11 月 10 日	基本計画策定 文教福祉委員会，全員協議会開催 ・水戸城大手門，二の丸角櫓，土塀整備基本計画について

5 要項

○ 水戸市歴史的風致維持向上計画協議会設置要項

(設置)

第1条 地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律(平成20年法律第40号。以下「法」という。)第11条第1項の規定に基づき、水戸市歴史的風致維持向上計画協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(所掌事項)

第2条 協議会は、次の各号に掲げる事項を所掌する。

- (1) 水戸市歴史的風致維持向上計画(以下「維持向上計画」という。)の策定及び変更並びに実施に係る連絡調整に関すること。
- (2) 前号に掲げるもののほか、協議会が必要であると認める事項に関すること。

(組織)

第3条 協議会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 維持向上計画にその整備又は管理に関する事項を記載しようとする歴史的風致維持向上施設の整備又は管理を行う者
- (2) 法第34条第1項の規定により市長が指定した歴史的風致維持向上計画支援法人
- (3) 茨城県
- (4) 重要文化財建造物等の所有者
- (5) 水戸市
- (6) 前各号に掲げる者のほか、協議会が必要であると認める者

(会長及び副会長)

第4条 協議会に、委員の互選により会長及び副会長を置く。

- 2 会長は、必要に応じて協議会を招集し、協議会の事務を掌理し、会議の議長となる。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(関係者の出席)

第5条 協議会は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第6条 協議会の庶務は、水戸市教育委員会事務局教育部歴史文化財課において行う。

(補則)

第7条 この要項に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

付 則

この要項は、平成 20 年 11 月 4 日から施行する。

付 則

この要項は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

付 則

この要項は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

○ 水戸市歴史的風致維持向上計画検討委員会設置要項

(設置)

第1条 地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（平成20年法律第40号）第5条第1項の規定に基づく水戸市歴史的風致維持向上計画（以下「維持向上計画」という。）を円滑に策定し、及び推進するため、水戸市歴史的風致維持向上計画検討委員会（以下「検討委員会」という。）を置く。

(所掌事項)

第2条 検討委員会は、次の各号に掲げる事項を所掌する。

- (1) 維持向上計画の策定及び推進に伴う連絡調整に関すること。
- (2) 前号に掲げるもののほか、検討委員会が必要と認める事項に関すること。

(組織)

第3条 検討委員会は、委員長、副委員長及び委員をもって組織する。

- 2 委員長には、教育部長をもって充てる。
- 3 副委員長には、都市計画部長をもって充てる。
- 4 委員には、別表に掲げる者をもって充てる。

(委員長)

第4条 委員長は、必要に応じて検討委員会を招集し、検討委員会の事務を掌理し、会議の議長となる。

- 2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(関係職員の出席)

第5条 検討委員会は、必要があると認めるときは、関係職員の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第6条 検討委員会の庶務は、教育委員会事務局教育部歴史文化財課において行う。

(補則)

第7条 この要項に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

付 則

この要項は、平成20年9月22日から施行する。

付 則

この要項は、平成22年4月1日から施行する。

付 則

この要項は、平成27年4月1日から施行する。

別表（第3条関係）

政策企画課長	交通政策課長	財政課長	市民生活課長	商工課長	観光課長	建設計画課長
道路管理課長	建築課長	都市計画課長	建築指導課長	公園緑地課長	市街地整備課長	教育企画課長
学校施設課長						

○ 水戸市歴史まちづくり推進ワーキンググループ設置要項

(設置)

第1条 水戸市歴史的風致維持向上計画（以下「計画」という。）の円滑な推進を図るため、水戸市歴史的風致維持向上計画検討委員会（以下「委員会」という。）の下部組織として、水戸市歴史まちづくり推進ワーキンググループ（以下「ワーキンググループ」という。）を置く。

(所掌事項)

第2条 ワーキンググループは、次の各号に掲げる事項を所掌する。

- (1) 計画の推進及び改定に係る課題の調査及び検討に関すること。
- (2) 前号に掲げるもののほか、ワーキンググループが必要と認める事項に関すること。

(組織)

第3条 ワーキンググループは、座長、副座長及び委員をもって組織する。

- 2 座長には、歴史文化財課長をもって充てる。
- 3 副座長には、都市計画課長をもって充てる。
- 4 委員には、別表に掲げる所管課の課長補佐級の職員をもって充てる。

(会議)

第4条 座長は、必要に応じてワーキンググループを招集し、ワーキンググループの事務を掌理し、会議の議長となる。

- 2 副座長は、座長を補佐し、座長に事故あるとき、又は座長が欠けたときは、その職務を代理する。
- 3 座長は、ワーキンググループの調査及び検討の結果について、委員会に報告するものとする。

(関係職員の出席)

第5条 ワーキンググループは、必要があると認めるときは、関係職員の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第6条 ワーキンググループの庶務は、教育委員会事務局教育部歴史文化財課において行う。

(補則)

第7条 この要項に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

付 則

この要項は、平成22年2月24日から施行する。

付 則

この要項は、平成22年4月1日から施行する。

付 則

この要項は、平成27年4月1日から施行する。

別表（第3条関係）

課 名							
政策企画課	交通政策課	財政課	市民生活課	商工課	観光課	建設計画課	道路管理課
建築課	都市計画課	建築指導課	公園緑地課	市街地整備課	教育企画課	学校施設課	

○ 弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史まちづくりに向けた関係機関連絡会議要項

(設置)

第1条 弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史まちづくりを関係機関との連携により円滑に推進するため、弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史まちづくりに向けた関係機関連絡会議（以下「連絡会議」という。）を置く。

(所掌事項)

第2条 連絡会議は、次の各号に掲げる事項について所掌する。

- (1) 弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史まちづくりに係る連絡調整に関すること。
- (2) 前号に掲げるもののほか、必要と認める事項に関すること。

(組織)

第3条 連絡会議は、別表に掲げる関係機関をもって組織する。

(会議)

第4条 連絡会議に、座長を置く。

- 2 座長には、水戸市教育委員会事務局教育部長をもって充て、会議の進行を行う。

(関係者の出席)

第5条 連絡会議は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(事務局)

第6条 連絡会議の事務局は、水戸市教育委員会事務局教育部歴史文化財課に置く。

(補則)

第7条 この要項に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

付 則

この要項は、平成25年4月25日から施行する。

付 則

この要項は、平成27年4月1日から施行する。

別表（第3条関係）

関係機関名				
国立大学法人茨城大学	茨城県土木部	茨城県教育庁	水戸市教育委員会	水戸市都市計画部